

k-573

米沢市埋蔵文化財調査報告書 第80集

遺跡詳細分布調査報告書

第16集

住宅開発分布調査

大規模開発関係分布調査

成島古墳発掘調査

2003

米沢市教育委員会

遺跡詳細分布調査報告書

第16集

住 宅 開 発 分 布 調 査
大 規 模 開 發 関 係 分 布 調 査
成 島 古 墳 発 掘 調 査

2003

米沢市教育委員会

序 文

本報告書は、米沢市教育委員会が平成14年度に、国庫補助事業として実施した「遺跡詳細分布調査」の成果をまとめたものです。

米沢市教育委員会は、埋蔵文化財の周知を図るため遺跡詳細分布調査を16年間継続しております。調査を重ねることは、埋蔵文化財の所在の解明につながります。

今年度の遺跡詳細分布調査では、宅地関係はもとより成島古墳群1号墳の調査、広幡地区の広範囲に及ぶ分布調査も実施いたしました。その結果、これまでに確認されている成島古墳群の他に京塚古墳群、延長寺古墳、下小菅古墳、西方古墳群を新たに確認することができました。特に京塚古墳群には、前方後円墳も含まれていると聞いております。

本調査の成果を上げることができましたことは、関係各位のご理解とご協力の賜ものと感謝申し上げます。今後とも開発事業に対し円滑な調整を図り、可能な限り力を注いでいく所存です。

最後になりましたが、調査に際しご指導を賜りました文化庁、山形県教育庁社会教育課文化財保護室をはじめ、地権者各位、地元の皆様に対し、心からお礼申し上げます。

平成15年3月

米沢市教育委員会

教育長 佐藤政一

例　　言

- 1 本報告書は、平成14年度に文化庁の補助を受けて実施した遺跡詳細分布調査報告書である。
- 2 調査は米沢市教育委員会が実施した。
- 3 調査期間 平成14年5月16日から15年3月31日
- 4 調査体制は下記のとおりである。

調査主体 米沢市教育委員会

調査総括 村野 隆男(文化課長)

調査担当 手塚 孝(文化課文化財担当主任)

調査主任 菊地 政信(文化課文化財担当主任)

月山 隆弘(文化課文化財担当主任)

調査補助員 高橋 拓渡部 明美

調査参加者 遠藤 富男 近野 康子 笹川 由紀

佐藤 謙治 高橋 正子

事務局長 情野 勲治(文化課長補佐兼文化財主査)

事務局 深瀬 順子(文化課文化財担当主査)

調査指導 文化庁 山形県教育庁社会教育課文化財保護室

- 5 押図の縮尺は、第I節1は10,000分の1、第I節2は5,000分の1である。
第II・III節は押図毎にスケールで示した。第I・II節の押図は上部が磁北を示しており、他は各押図に示した。押図内の図化及び記号は、DY-土廣、TY-柱穴、AZ-土器、BZ-石器を示す。写真図版の縮尺は適宜行っている。
- 6 出土遺物は、米沢市埋蔵文化財資料室(米沢市万世町桑山269番地-3)に保管している。
- 7 本書の作成は、第I・II節が月山隆弘、第III節は菊地政信、全体については手塚孝が総括した。
- 8 調査にあたって、粟野修一・荒井政二郎・金田八良・金谷恵一・寒河江八重・色摩はるゑ・柴田円右衛門・林高庵・我妻剛の各氏及び関係各位のご協力を得た。記して感謝申し上げます。

本文目次

序 文

例 言

第I節 住宅開発等に伴う埋蔵文化財調査経過

1 住宅開発等に伴う遺跡の確認	1
2 大規模開発に伴う分布調査	1
3 試掘調査状況	4

第II節 鎌山北館跡周辺の分布調査

1 遺跡の概要	19
2 調査状況	19

第III節 成鳥古墳群1号墳の調査

1 遺跡の概要	21
2 調査に至る経過	21
3 調査経過	21
4 調査の成果	22
5 まとめ	22

報告書抄録

第IV節 広幡地区古墳群の分布調査

1 調査の目的	31
2 調査の経過	31
3 調査の成果	31
4 まとめ	33

附表目次

表-1 分布調査箇所	2
表-2 公共事業関係分布調査箇所	3
表-3 大規模開発分布調査箇所	3

挿図目次

第1図	米沢城跡位置図	4	第2図	小野川D遺跡位置図	5
第3図	上新田c遺跡位置図	5	第4図	通町遺跡位置図	5
第5図	大塙A遺跡位置図	6	第6図	花沢b遺跡位置図	6
第7図	台坂遺跡位置図	6	第8図	塩野新館前館跡位置図	7
第9図	八木橋a遺跡位置図	7	第10図	荒川・荒川2遺跡位置図	7
第11図	下花沢b遺跡位置図	8	第12図	台之南館跡位置図	8
第13図	田中屋敷館跡位置図	8	第14図	玉ノ木a遺跡位置図	9
第15図	十文字西遺跡位置図	9	第16図	笛野館内a館跡位置図	9
第17図	野原遺跡位置図	10	第18図	松原遺跡位置図	10
第19図	館山平城跡	10	第20図	福田町調査区位置図	11
第21図	林泉寺調査区位置図	11	第22図	中田町調査区位置図	12
第23図	遠山町調査区位置図	12	第24図	門東町調査区位置図	13
第25図	広幡町調査区位置図	13	第26図	塩井町調査区位置図	14
第27図	塩野地内調査区位置図	14	第28図	春日調査区位置図	15
第29図	六郷町調査区位置図	15	第30図	相生町調査区位置図	16
第31図	花沢地内調査区位置図	16	第32図	太田町調査区位置図	17
第33図	徳町調査区位置図	17	第34図	万世町調査区位置図	18
第35図	吹屋敷町調査区位置図	18	第36図	館山北館跡位置図	19
第37図	館山北館跡付近調査区	20	第38図	古墳群位置図	23
第39図	成島古墳群京塚古墳群分布図	24	第40図	成島古墳群2号墳略測図	25
第41図	成島古墳群3・4号墳略測図	26	第42図	成島古墳群5・6号墳略測図	27
第43図	成島古墳群1号墳調査区配置図	28	第44図	成島古墳群1号墳主体部断面図	29
第45図	成島古墳群Eトレンチ断面図	30	第46図	京塚古墳群1・6号墳略測図	34
第47図	京塚古墳群2・3号墳略測図	35	第48図	京塚古墳群4号墳略測図	36
第49図	京塚古墳群7・8号墳略測図	37	第50図	西方・下小菅・延長寺古墳分布図	38

図版目次

- 図版1 館山北館の分布調査（調査区全景、トレンチ調査状況）
- 図版2 館山北館の分布調査（トレンチ調査状況、柱穴検出状況）
- 図版3 成島古墳1号墳の調査（成島古墳群1号墳、成島古墳群1号墳後円部）
- 図版4 成島古墳1号墳の調査（成島古墳群遠景）
- 図版5 成島古墳群の調査（成島古墳群2号墳、成島古墳群1号墳の重機削平箇所）
- 図版6 成島古墳群の調査（成島古墳群3号墳、成島古墳群4号墳）
- 図版7 成島古墳群の調査（成島古墳群5号墳、成島古墳群6号墳）
- 図版8 成島古墳群1号墳出土遺物（成島古墳群1号墳出土の鹿角装剣、成島古墳群1号墳出土の管玉）
- 図版9 成島古墳群1号墳の確認調査（2002年度トレンチ全景、2002年度トレンチ近景）
- 図版10 成島古墳群1号墳の確認調査（2002年度調査のEトレンチ、2002年度Eトレンチ延長状況）
- 図版11 成島古墳群1号墳の確認調査（2002年度トレンチ全景、2002年度トレンチ全景）
- 図版12 成島古墳群1号墳の確認調査（2002年度トレンチセクション、2002年度トレンチセクション）
- 図版13 成島古墳群1号墳の確認調査（成島古墳群1号墳埋戻状況、成島古墳群1号墳トレンチ埋戻状況）
- 図版14 京塚古墳群の分布調査（京塚古墳群1号墳、京塚古墳群2号墳）
- 図版15 京塚古墳群の分布調査（京塚古墳群2号墳、京塚古墳群2号墳）
- 図版16 京塚古墳群の分布確認（京塚古墳群4号墳、京塚古墳群4号墳）
- 図版17 京塚古墳群の分布調査（京塚古墳群3号墳、京塚古墳群6号墳）
- 図版18 京塚古墳群の分布調査（京塚古墳群7・8号墳、京塚古墳群9号墳）

第Ⅰ節 住宅開発等に伴う埋蔵文化財調査経過

1 住宅開発に伴う遺跡の確認

本年度、本市教育委員会に住宅開発等によって埋蔵文化財に係わりがあると判断されるため、協議や分布調査等の確認依頼を受けたのは、平成15年3月20日現在で100件以上あった。これらのなかで、遺跡包蔵地及び包蔵地以外を含め、実際に試掘調査及び立会い調査を実施した内訳は下記のとおりである。

(1) 住宅建設に係わるもの	25件	(2) 店舗建設に係わるもの	3件
(3) 工場・倉庫等に係わるもの	2件	(4) 砂利採取に係わるもの	0件
(5) 土地開発等に係わるもの	3件	(6) 公共施設等に係わるもの	7件
(7) その他の開発等に係わるもの	10件		

以上のように、今年度の試掘調査を実施した49件であり、種別は例年と同様、住宅開発に係わるものが大半を占めており、次いでその他の開発、公共事業、店舗・土地開発の開発に係わるものであった。

上記の分布調査の概要は、大規模開発と区別し調査箇所・調査月日・開発種別・調査方法等を表-1分布調査箇所に一括し、また位置図と遺跡範囲と調査地点を第1～19図にまとめた。

今年度の遺跡詳細分布調査では、宅地関係はもとより成島古墳群1号墳の調査、広幡地区の広範囲に及ぶ分布調査も実施した。その結果、これまでに確認されている成島古墳群の他に京塚古墳群、延長寺古墳、下小菅古墳、西方古墳群を新たに確認することができた。特に京塚古墳群には、前方後円墳も含まれている。この成島古墳群については第Ⅲ節で、また、平成13年度に緊急発掘調査した、館山北館跡の隣接地の分布調査を実施した結果を第Ⅱ節で報告する。

今年の宅地開発等の分布調査は例年に比較すると、開発件数が少ないとからか、埋蔵文化財に係わりがある開発は減少傾向であった。

2 大規模開発に伴う試掘調査

本市教委では、遺跡の周知徹底を図るために遺跡の有無に係らず、開発面積が1,000m²以上を大規模開発の目安としており、各開発者に分布調査依頼書を提出していただき、試掘調査を実施している。今年度の大規模開発には16件の分布調査依頼があり、宅地造成が6件と一番多い。次いで店舗新築、砂利採取等それぞれ3件あったが、過去に隣接する箇所の試掘調査結果によって旧河川跡と判断されることから、遺跡地図確認のみで対処した箇所もある。

近年の大規模開発傾向は、郊外における大型店舗及び宅地造成による開発が多く見られたが、景気の低迷などからか、今年度は全体的に分布調査依頼の件数も例年より非常に少ない状況であった。以上の大規模開発に係る試掘調査の概要は、調査箇所・調査月日・開発種別・調査方法等を表-3大規模開発分布調査箇所に一括し、位置図と調査箇所を第19～34図にまとめたので参照されたい。

表-1 分布調査箇所

No.	遺跡名	調査箇所	調査月日	種別	調査方法	備考
1	米沢城	松が岬二丁目 3142-12	4月1日	車 庫	トレンチ	1×7 m 2本
2	小野川D	小野川町字堂ノ前 2312 外	4月1日	住 宅	トレンチ	1×10 m 2本
3	上新田大字c	大字上新田 163	4月5日	住 宅	トレンチ	1×10 m 2本
4	通 町	通町七丁目 4-10	4月9日	住 宅	トレンチ	1×14 m 外3本
5	米沢城	城南一丁目 117-6	4月15日	集合住宅	トレンチ	1×14 m 2本
6	大塙A	大字諸仏字諸仏 3748-2 外	4月17日	集合住宅	トレンチ	2×30 m 3本
7	花沢b	駅前西丁目 2333-7	4月24日	住 宅	トレンチ	1×12 m 2本
8	台 板	下花沢三丁目 1865 外	5月9日	宅地造成	トレンチ	2×30 m 3本
9	米沢城	丸の内一丁目 3103-22	5月9日	店舗・住宅	トレンチ	1×8 m 2本
10	塩野新館前館	塩井町塩野字高田上 4053-1 外	5月10日	住 宅	トレンチ	1×8 m 1本
11	台 板	下花沢三丁目 1475 外	5月14日	宅地造成	トレンチ	1.5×50 m 3本
12	八木橋 a	大字花沢 3468 外	5月23日	工 場	遺跡地図確認	
13	荒 川	塩井町塩野字三崎 803-5	5月30日	住 宅	トレンチ	1×10 m 外1本
14	下花沢b	下花沢一丁目 7688-2	5月30日	住 宅	トレンチ	1×14 m 外1本
15	米沢城	丸の内一丁目 3103-5	6月21日	住 宅	トレンチ	1×8 m 外1本
16	台之南館	雍田町東江設字下宮ノ前 649-2	7月2日	住 宅	トレンチ	1×10 m 2本
17	田中屋敷館	雍田町藤泉字沖上 941-3	7月2日	住 宅	トレンチ	1.2×14 m 外1本
18	玉ノ木 a	大字竹井字上竹井 411-5	7月5日	車 庫	トレンチ	1×10 m 外1本
19	十文字西	万世町牛森字矢道東 4272-10	7月23日	住 宅	トレンチ	1×10 m 外2本
20	台 板	下花沢三丁目 1741-2 外	7月24日	住 宅	トレンチ	1.5×16 m 外1本
21	荒川2	塩井町塩野字荒川上 762-1 外	7月26日	宅地造成	トレンチ	1.5×30 m 4本
22	台 板	下花沢三丁目 1794-1 外	7月29日	住 宅	トレンチ	1×13 m 2本
23	米沢城	門東町二丁目 3035-2 外	8月29日	集合住宅	トレンチ	1×13 m 外1本
24	猿野館ノ内 a	猿野本町字坂ノ下 6803 外	9月10日	墓地造成	トレンチ	2×20 m 4本
25	通 町	通町七丁目 8767-10	9月12日	住 宅	トレンチ	1×10 m 2本
26	米沢城	丸の内二丁目 3056-6	9月30日	工 場	トレンチ	1×10 m 2本
27	花沢b	駅前三丁目 1861-10 外	10月8日	集合住宅	トレンチ	1.8×25 m 2本
28	野 際	大字竹井字野際 775-7 外	11月11日	資材置場	トレンチ	2×30 m 3本
29	松 原	大字三沢字白旗壹武26106-3外	11月14日	老人介護施設	トレンチ	2×10 m 3本
30	花沢b	駅前西丁目 2316-2 外	11月27日	車 庫	トレンチ	1.5×16 m 2本
31	花沢b	駅前西丁目 2317	11月27日	農作業小屋	トレンチ	1.5×5.4 m 2本
32	大塙A	大字猿野字町道東武 3924-2	2月25日	車 庫	トレンチ	1×7 m 4本
33	鶴山平城	鶴山一丁目 28	3月3日	老人介護施設	トレンチ	1×10 m 2本

表-2 公共事業関係分布調査箇所

No.	遺跡名	調査箇所	調査月日	種別	調査方法	備考
1	花沢a	花沢町一丁目 2517-2 外	5月22日 ~6月2日	下水道	立会調査	1.4×450 m
2	花沢b	駅前三丁目 1822 外	5月31日	下水道	立会調査	1×220 m
3	花沢a	駅前四丁目外	6月20日	道路	立会調査	5×170 m
4	大浦A	中田町字芦付2 284 外	7月29日	下水道	立会調査	1.3×10 m
5	台坂	下花沢三丁目 1860-4 外	8月1日	下水道	立会調査	1.6×10 m
6	鶴山平城跡	鶴山三丁目 6499 外	11月1日	下水道	立会調査	1×10 m
7	台坂	下花沢二丁目 1645-5 外	3月12日 ~3月20日	側溝	立会調査	1×101m

表-3 大規模開発分布調査箇所

No.	遺跡名	調査箇所	調査月日	種別	調査方法	備考
1	該当なし	福田町二丁目 1615-6 外	4月3日	宅地造成	トレンチ	2×10 m 2本
2	該当なし	林泉寺一丁目 2142-1 外	4月24日	宅地造成	トレンチ	2×50 m 4本
3	該当なし	中田町字前川原地内	5月23日	店舗新築	トレンチ	2×80 m 外5本
4	該当なし	遠山町 404-1	6月25日	造成工事	トレンチ	2×5 m 5本
5	該当なし	門東町三丁目 2997 外	8月1日	商店街開発	遺跡地図確認	
6	該当なし	広橋町小山田 1174 外	8月12日	砂利採取	遺跡地図確認	
7	該当なし	塙井町塙野字堰場 5099 外	8月12日	砂利採取	遺跡地図確認	
8	該当なし	大字塙野字成島町北浦 4	8月12日	駐車場建設	遺跡地図確認	
9	該当なし	春日二丁目 3805-1 外	8月26日	商店街開発	遺跡地図確認	
10	該当なし	六郷町桐原 75	10月15日	砂利採取	遺跡地図確認	
11	該当なし	相生町 1747-1 外	10月25日	店舗新築	トレンチ	2×30 m 14本
12	該当なし	大字花沢字八木橋東塙外	11月25日	事務所・駐車場	トレンチ	2×10 m 外14本
13	該当なし	太田町二丁目地内	12月2日	宅地造成	トレンチ	2×10 m 15本
14	該当なし	徳町 431-7	12月3日	店舗新築	遺跡地図確認	
15	該当なし	万世町桑山 91 外	12月26日	宅地造成	トレンチ	2×140 m 外2本
16	該当なし	吹屋敷町 504-1 外	1月7日	宅地造成	遺跡地図確認	
17	該当なし	大字川井字元立 4887-134	2月5日	産廃施設	現地確認	2×140 m 外2本
18	該当なし	金池六丁目 8-8	3月20日	老人介護施設	遺跡地図確認	

3 試掘調査状況

1 米沢城跡

本遺跡は、市街地の松が岬公園一帯に所在し、付近には上杉神社、博物館、観光センター、商店街があり、市民の憩いの場及び観光地となっている。丸の内一丁目を中心とする城南・松が岬、門東町地内の標高248～252mに所在する。

遺跡は、本丸、二の丸、三の丸の一部を含め、東西約770m×南北900mの約690,000m²の範囲を有し、市街地ではもっとも広範囲に分布する。米沢城跡の発掘調査は、東二の丸、南二の丸を含め過去7回実施している。

当該地には今回6件の申請があり、Aは車庫、B・Eが集合住宅、C・Dは店舗・住宅、Fが工場に伴うものであった。

当該地に、1m×7m、1m×14m等のトレンチをそれぞれ2本設定し調査した結果、概ね表土下50～80cmで、茶褐色や黒褐色粘土質シルト層であった。旧堀跡部分では泥炭層になっており、地山層上部には焼土や白壁の焼けた土が混入していた。火災時の整地層と判断される。また、地山層上部の殆どが搅乱層になっていた。全ての調査箇所で、遺構・遺物等は検出されなかったことから、念のため慎重工事を指示した。



第1図 米沢城跡位置図

2 小野川D遺跡

本遺跡は、市街地南西約4kmの小野川町の標高340mに所在する。遺跡は東西200m×南北200mに分布する縄文時代（中期）の遺跡である。1991年に宅地造成に伴って、発掘調査を実施しており、土壌・焼土遺構・ピット等多数検出している。遺跡南側に隣接して縄文（中期）・中世の小野川C遺跡が分布する。

今回の申請は1件で、個人の住宅建設に伴うものである。当該地に、1m×10mのトレンチ2本を設定し調査した結果、表土下50cmが茶褐色シルトの遺構確認面であった。遺構・遺物とも検出されなかつたが、念のため慎重工事を指示した。

3 上新田c遺跡

本遺跡は、市街地南方2kmの住宅街に位置し、最上川の自然堤防上の標高263mに立地する。遺跡範囲は東西250m×南北750mに分布する縄文時代である。遺跡は、平成7年度から今年度まで6回の発掘調査を実施しており、縄文中期の大集落であることが判明している。

今回の申請は1件で、個人の住宅建設に伴うものである。当該地に、1m×10mのトレンチ2本を設定し調査した結果、表土下30cmで、茶褐色シルトの遺構確認面であった。遺構・遺物とも検出されなかつたが、念のため慎重工事を指示した。

4 通町遺跡

本遺跡は、市街地南東約3kmの通町地内の標高259mに所在する。最上川の河岸段丘に立地し、遺跡は東西300m×南北400mに分布する縄文時代（中期）の遺跡である。

今回の申請は2件で、それぞれ住宅建設に伴うものである。当該地に、1m×14mのトレンチ外3本を設定し調査した結果、表土下40cmが、茶褐色シルト及び黄褐色シルトの安定した遺構確認面であった。遺構・遺物等は検出されなかつたが、念のため慎重工事を指示した。



第2図 小野川D遺跡位置図



第3図 上新田c遺跡位置図



第4図 通町遺跡位置図

5 大塙 A 遺跡

本遺跡は、大字 笹野地内の市街地南側約 6 km に位置し、標高 244 m に所在する。東西 550 m × 南北 450 m に分布する縄文時代の遺跡である。当該地付近には隣接して大塙 B・C、大塙山遺跡（縄文）等の遺跡が広範囲に分布する地域である。

今回の申請は 1 件で、集合住宅と車庫に伴うものである。集合住宅には 2 m × 30 m のトレンチ 3 本設定し密に調査した。その結果、表土下 60 ~ 90 cm と地山層までは起伏が大きく、茶褐色シルトの地山層が確認された。しかし、遺構・遺物等は検出されなかつたが、念のため慎重工事を指示した。

6 花沢 b 遺跡

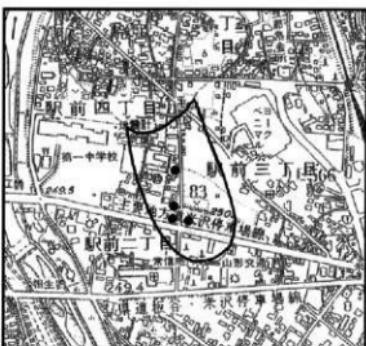
本遺跡は、駅前四丁目、下花沢二丁目の JR 米沢駅西側約 400 m に位置し、最上川の河岸段丘の標高 257 m に所在する。東西 200 m × 南北 300 m に分布する縄文時代の遺跡である。今回の申請は 4 件あり、A は住宅、B は集合住宅、C が車庫、D は農作業小屋に伴うものである。当該地にそれぞれ 1 m × 12 m・1.8 m × 25 m 等のトレンチ各 2 本設定し調査した結果、表土下 40 ~ 60 cm で、茶褐色シルトの地山層が確認された。しかし、ほとんどが既存の建物によって遺構・遺物等は検出されなかつたが、念のため慎重工事を指示した。

7 台坂遺跡

本遺跡は、下花沢三丁目付近の JR 米沢駅北側約 200 m に位置し、最上川の河岸段丘の標高 244 m に所在する。東西 400 m × 南北 650 m の広範囲に分布する縄文時代の遺跡である。今回の申請は 4 件あり、A・B は宅地造成、C・D が住宅に伴うものである。当該地に 2 m × 30 m・1.5 m × 16 m 等のトレンチを 2・3 本設定し調査した結果、表土下 40 ~ 50 cm で、茶褐色シルトの地山層が確認された。しかし、遺構・遺物等は検出されなかつたが、念のため慎重工事を指示した。



第 5 図 大塙 A 遺跡位置図



第 6 図 花沢 b 遺跡位置図

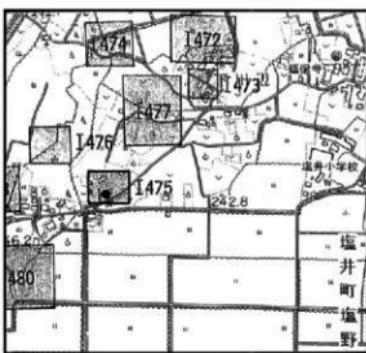


第 7 図 台坂遺跡位置図

8 塩野新館前館跡

本遺跡は、塩井町塩野地内の市街地北西側約5kmに位置し、標高約243mの水田地帯に所在する。東西150m×南北100mに分布する中世の館跡である。当該地付近1km範囲内には中世の館跡が10余り存在する。

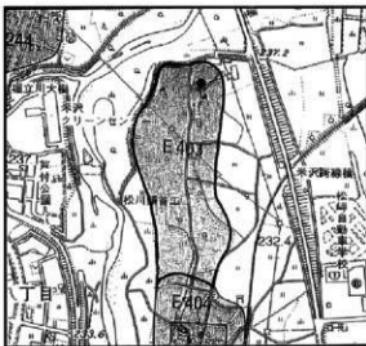
今回の申請は1件で、住宅に伴うものである。当該地に1m×8mのトレンチ2本設定し調査した結果、表土下50cmで、褐色シルトの地山層が確認された。しかし既存の建物によって攪乱しており、遺構・遺物等は検出されなかったが、念のため慎重工事を指示した。



第8図 塩野新館前館跡位置図

9 八木橋a遺跡

本遺跡は、大字花沢地内のJR米沢駅北側約2kmに位置し、最上川の河岸段丘の標高232mに所在する。東西200m×南北450mに分布する縄文・中世の複合遺跡である。南側に隣接して八木橋b遺跡・八木橋館跡が存在する。今回の申請は1件で、工場に伴うものである。当該地は近年、隣接するところを数箇所のトレンチ調査を実施しており、その結果、表土下40cm前後で、茶褐色シルトの地山層が確認される。しかし、数回の試掘調査で遺構・遺物等は検出されなかったことから、今回は試掘調査を実施せず、遺跡地図の確認で対応した。念のため慎重工事を指示した。

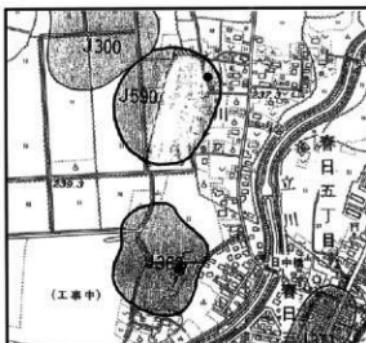


第9図 八木橋a遺跡位置図

10 荒川遺跡・荒川2遺跡

両遺跡は、市街地北東約3km、堀立川の河岸段丘西側に位置し、標高238mの水田地帯に所在する。遺跡範囲は両遺跡ともに東西200m×南北250mに分布する、縄文・平安時代・中世の複合遺跡である。

今回の申請はそれぞれ1件で、住宅に伴うものである。当該地に1m×10m・1.5m×30mのトレンチ2本設定し調査した結果、表土下40~50cmで、茶褐色粘土質シルトの地山層が確認された。しかし、遺構・遺物等は検出されなかったが、念のため慎重工事を指示した。

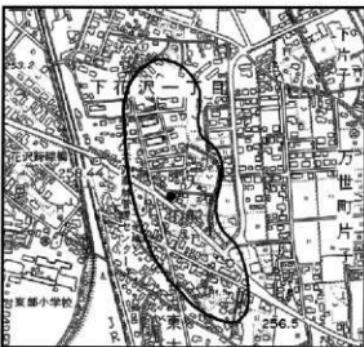


第10図 荒川・荒川2遺跡位置図

11 下花沢b遺跡

本遺跡は、大字万世町片子地内のJR米沢駅南東側約400mに位置し、最上川の河岸段丘の微高地、標高257mに所在する。東西200m×南北600mに分布する縄文の遺跡である。

今回の申請は1件で、住宅に伴うものである。当該地に1m×14mのトレンチ外1本設定し調査した結果、表土下40~60cmで、茶褐色シルトの地山層が確認された。しかし、既存の建物により地山層は擾乱しており、遺構・遺物等は検出されなかつたが、念のため慎重工事を指示した。

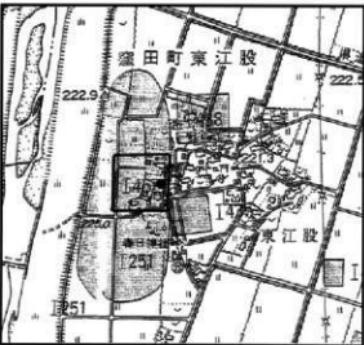


第11図 下花沢b遺跡位置図

12 台之南館跡

本遺跡は、窪田町東江股地内の市街地北西約6kmに位置し、最上川の河岸段丘の標高223mに所在する。東西120m×南北120mに分布する中世の遺跡である。半径500mには館跡が数基存在する。

今回の申請は1件で、住宅に伴うものである。当該地に1m×10mのトレンチ2本設定し調査した結果、表土下40~50cmで、茶褐色粘土質シルトの地山層が確認された。しかし、既存の建物や立木によって地山層の擾乱が著しかった。遺構・遺物等は検出されなかつたが、念のため慎重工事を指示した。



第12図 台之南館跡位置図

13 田中屋敷館跡

本遺跡は、窪田町藤泉地内の市街地北西約4kmに位置し、最上川の河岸段丘の標高228mに所在する。東西140m×南北100mに分布する中世の遺跡である。

今回の申請は1件で、住宅に伴うものである。当該地に1.2m×14mのトレンチ外1本設定し調査した結果、表土下40~50cmで、茶褐色粘土質シルトの地山層が確認された。しかし、既存の建物によって地山層の擾乱が著しかった。遺構・遺物等は検出されなかつたことから、念のため慎重工事を指示した。



第13図 田中屋敷館跡位置図

14 玉ノ木 a 遺跡

本遺跡は、大字竹井地内の市街地北東約5kmに位置し、最上川の河岸段丘の標高250mに所在する。東西150m×南北200mに分布する奈良・平安時代の遺跡である。

今回の申請は1件で、車庫に伴うものである。当該地に1m×10mのトレンチ外1本設定し調査した結果、表土下約50cmで、茶褐色シルトの地山層が確認された。しかし、既存の建物によって地山層の攪乱が著しかった。遺構・遺物等は検出されなかつたことから、念のため慎重工事を指示した。

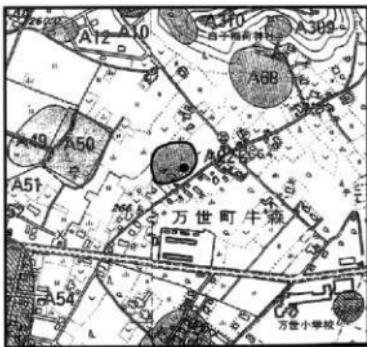


第14図 玉の木a遺跡位置図

15 十文字西遺跡

本遺跡は、万世町牛森地内のJR米沢駅北東側約3kmに位置し、標高267mの水田地帯に所在する。東西100m×南北100mに分布する中世の遺跡である。当遺跡100m範囲には、縄文の遺跡が密集する。

今回の申請は1件で、住宅に伴うものである。当該地に1m×10mのトレンチ外2本設定し調査した結果、表土下40～50cmで、茶褐色シルトの地山層が確認された。しかし、遺構・遺物等は検出されなかつたが、念のため慎重工事を指示した。

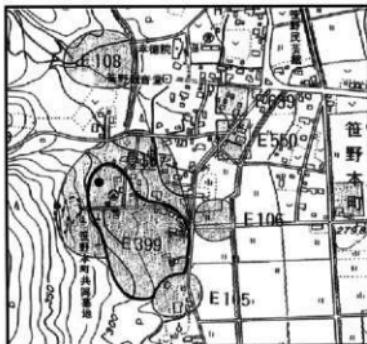


第15図 十文字西遺跡位置図

16 笹野館ノ内 a 館跡

本遺跡は、笹野本町地内の市街地南西約4kmに位置し、笹野丘陵直下、標高266mに所在する。東西200m×南北300mに分布する中世の遺跡である。

今回の申請は1件で、墓地造成に伴うものである。当該地に2m×20mのトレンチ4本設定し調査した結果、表土下40～50cmで、黄褐色粘質土の地山層が確認された。しかし、隣接する用水路の建設時に地山層の一部は削平されていた。遺構・遺物等は検出されなかつたが、念のため慎重工事を指示した。



第16図 笹野館ノ内a館跡位置図

17 野際遺跡

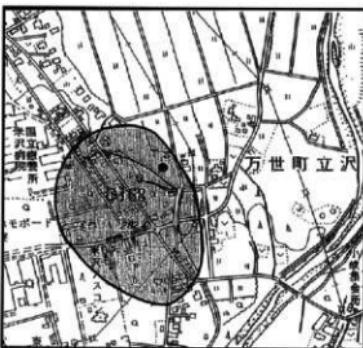
本遺跡は、大字竹井地内のJR米沢駅東側約2kmに位置し、羽黒川の河岸段丘の標高243mに所在する。東西250m×南北300mに分布する縄文時代の遺跡である。南側に隣接して、縄文(前期～晚期)の上谷地a・d遺跡が、また北側には、東屋敷遺跡(奈良・平安・中世)が存在する。今回の申請は1件で、資材置場に伴うものである。当該地に2m×30mのトレンチを3本設定し調査した結果、表土下40～70cmで、茶褐色シルトの地山層が確認された。しかし、遺構・遺物等は検出されなかつたが、念のため慎重工事を指示した。



第17図 野際遺跡位置図

18 松原遺跡

本遺跡は、大字三沢地内のJR米沢駅南東約3kmに位置し、羽黒川の河岸段丘の縁辺部、標高約282mに所在する。遺跡は東西300m×南北400mに分布する縄文の遺跡である。本遺跡は、過去3回の発掘調査を実施しており、縄文前期を主体として中期の遺跡が若干含まれている。今回の申請は1件で、老人福祉施設の建設に伴うものである。当該地に2m×10mのトレンチを3本設定し調査した結果、表土下60～90cmで、茶褐色シルトの地山層が確認された。しかし、遺構・遺物等は検出されなかつたが、念のため慎重工事を指示した。



第18図 松原遺跡位置図

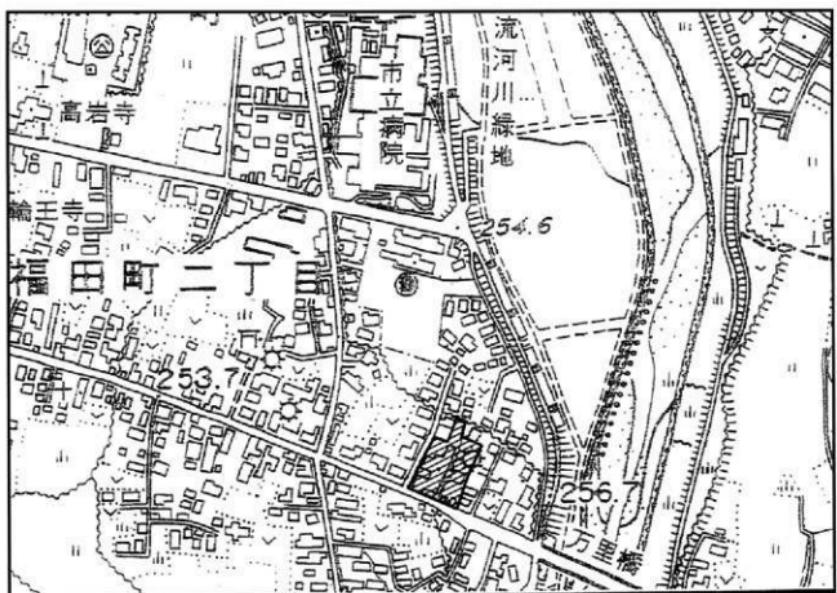
19 館山平城跡

本遺跡は、館山一丁目地内市街地西方約3kmに位置し、標高約261mに所在する。当該地西方1.5kmには、標高約330mの館山城跡が分布する。

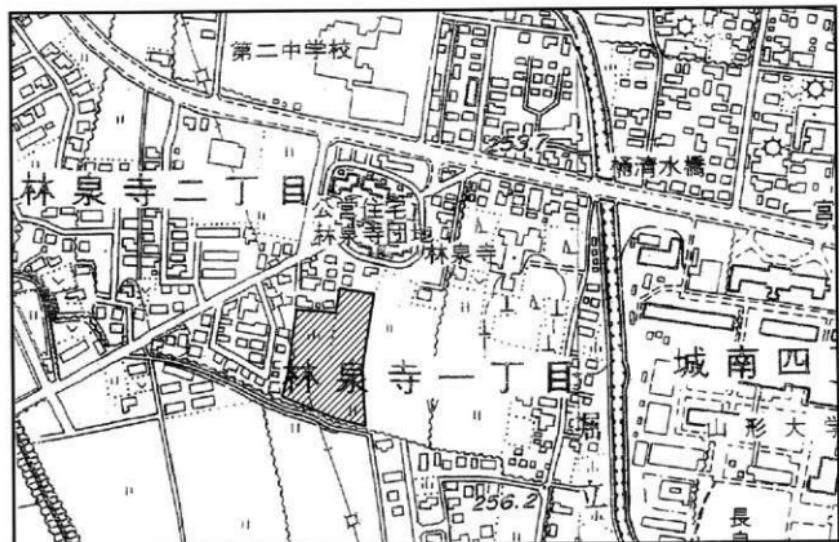
遺跡は東西1.2km×南北1kmに分布する中世の遺跡である。遺跡範囲には数箇所の縄文の遺跡が含まれている。今回の申請は1件で、老人施設の建設に伴うものである。当該地に2m×10mのトレンチを3本設定し調査した結果、表土下40～50cmで、茶褐色シルトの地山層が確認された。しかし、遺構・遺物等は検出されなかつたが、念のため慎重工事を指示した。



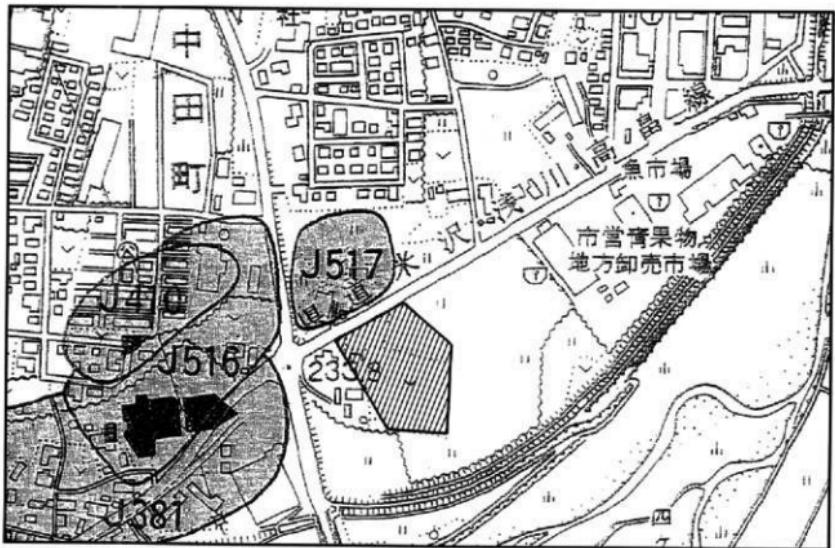
第19図 館山平城跡位置図



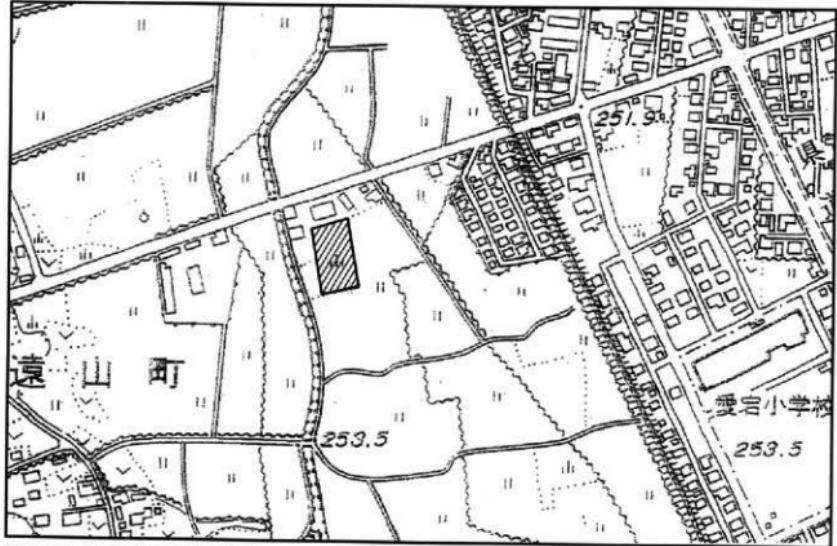
第20図 福田町調査区位置図



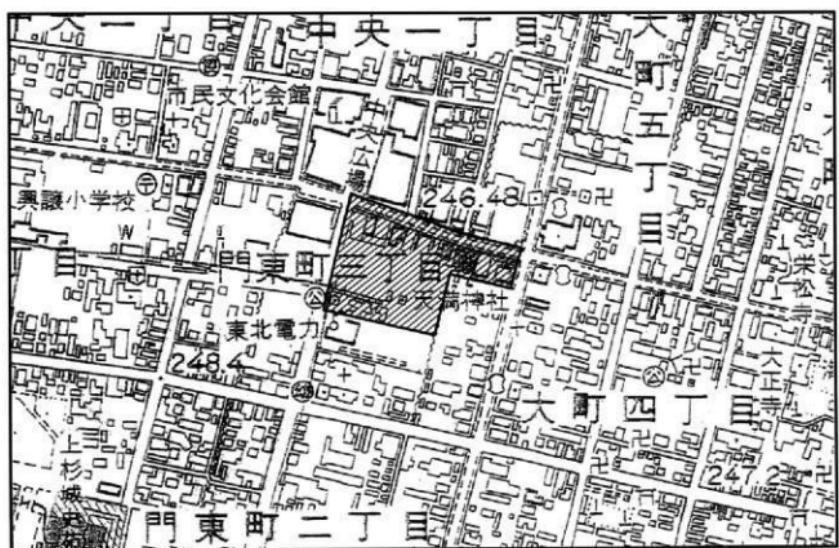
第21図 林泉寺調査区位置図



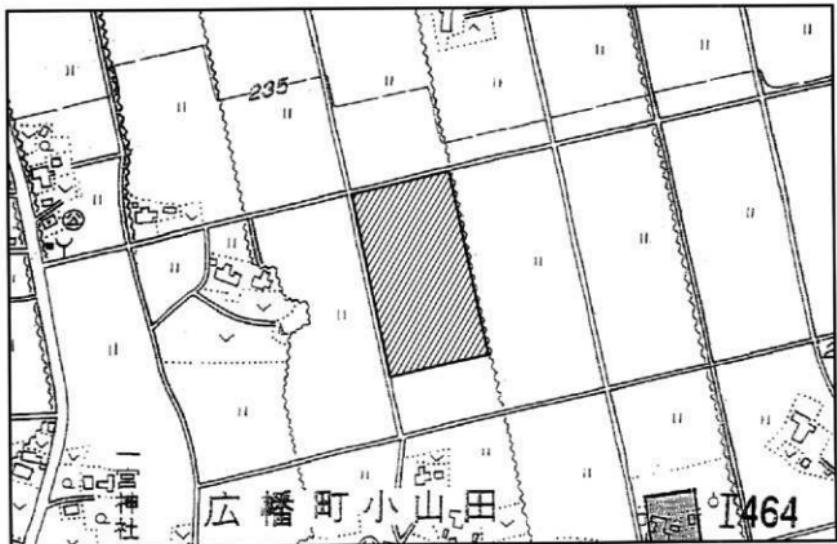
第22図 中田町調査区位置図



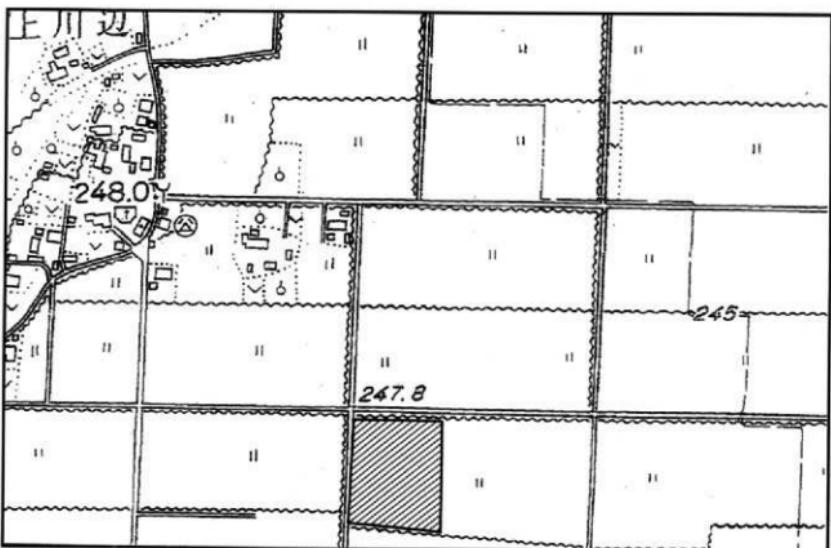
第23図 遠山町調査区位置図



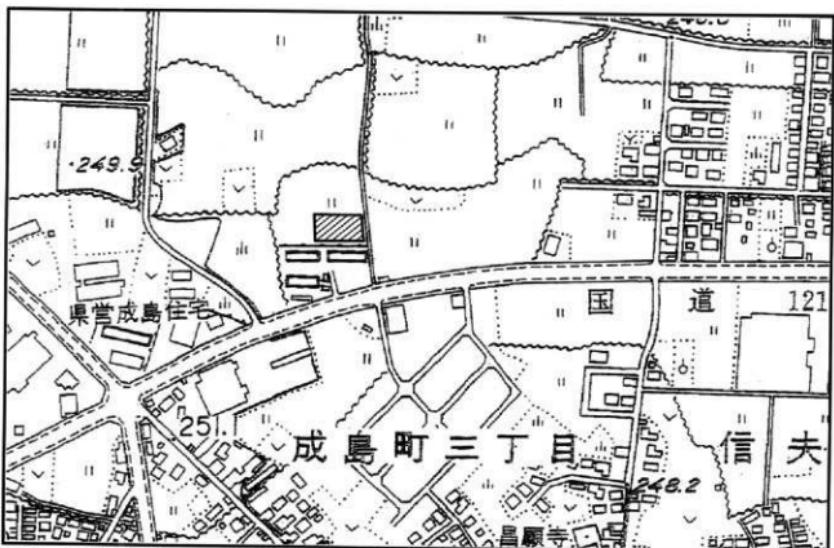
第24図 門東町調査区位置図



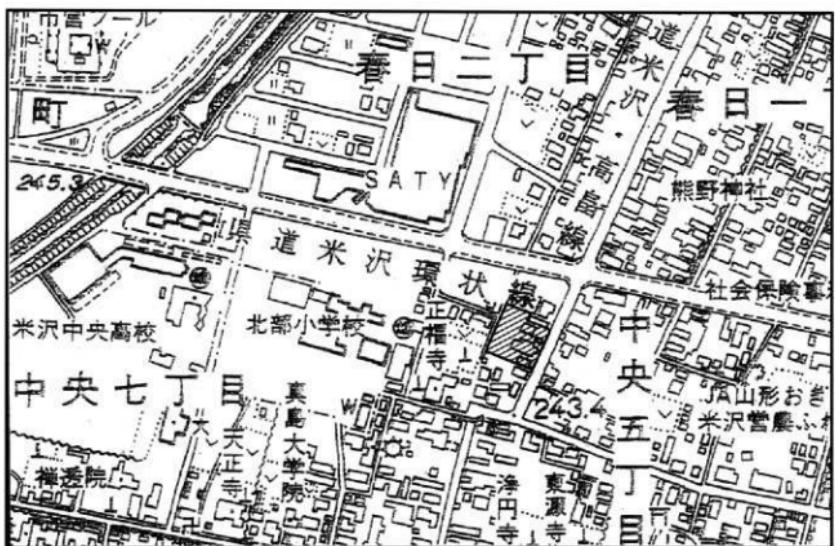
第25図 広幡町調査区位置図



第26図 塩井町調査区位置図



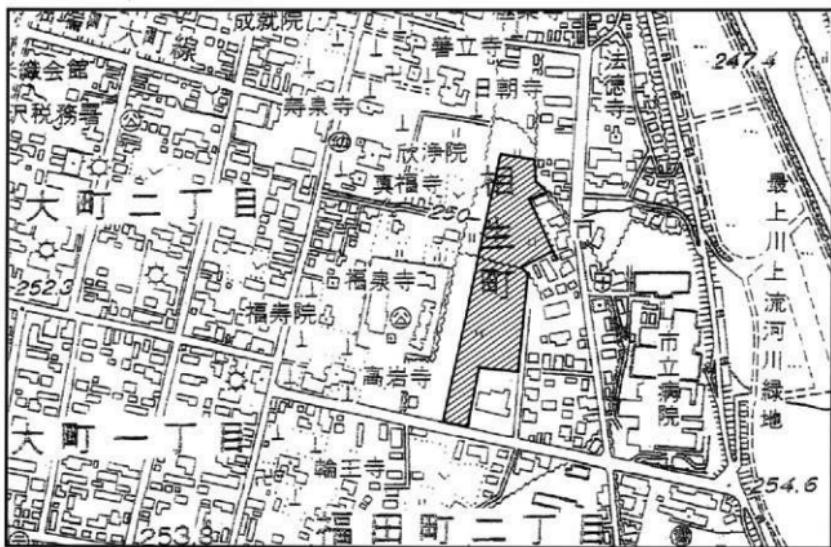
第27図 塩野地内調査区位置図



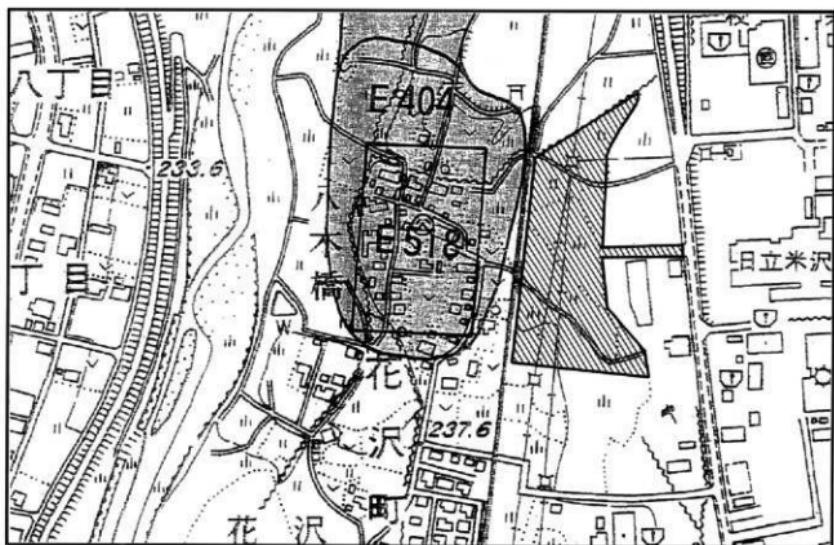
第28図 春日調査区位置図



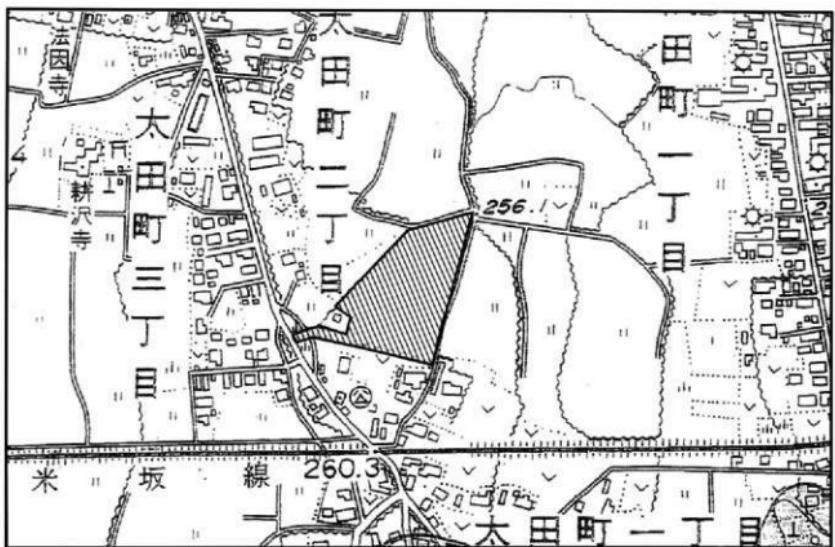
第29図 六郷町調査区位置図



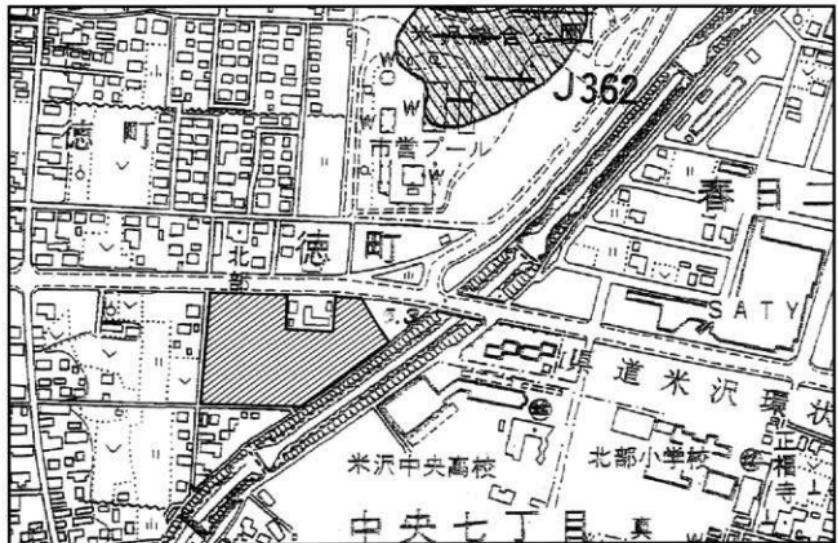
第30図 相生町調査区位置図



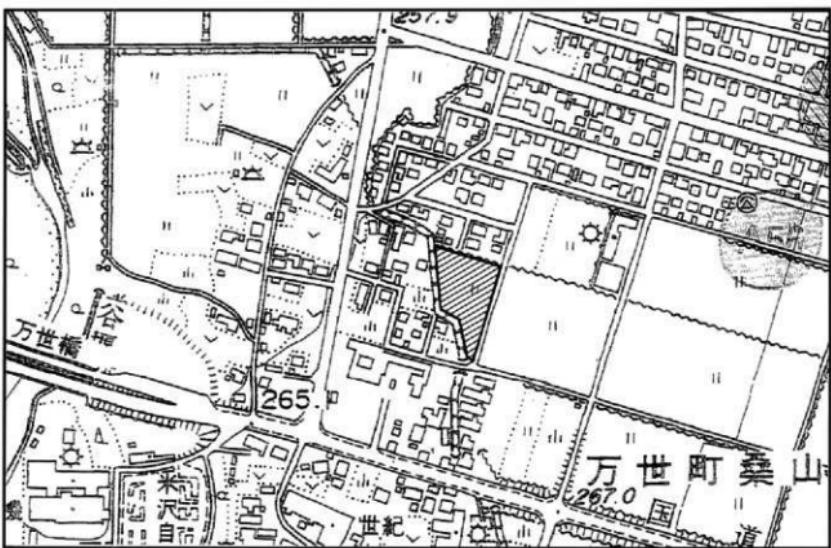
第31図 花沢地内調査区位置図



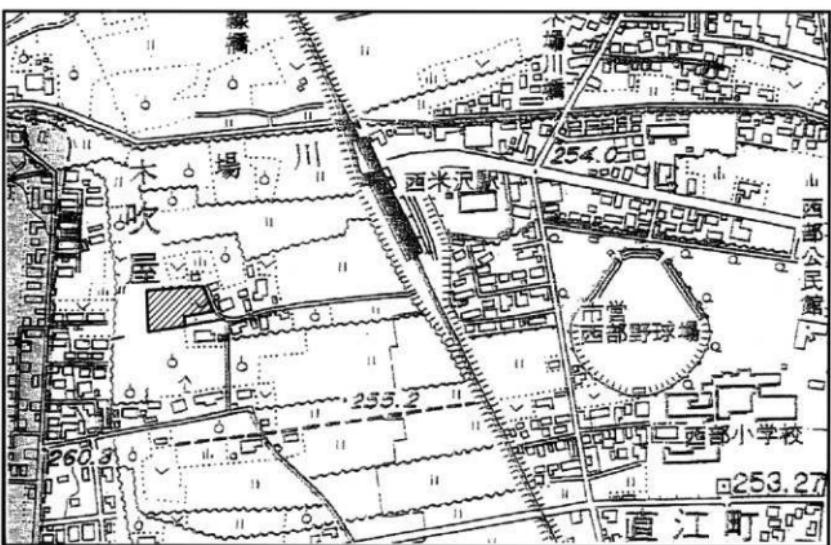
第32図 太田町調査区位置図



第33図 德町調査区位置図



第34図 万世町調査区位置図



第35図 吹屋敷町調査区位置図

第Ⅱ節 館山北館跡の分布調査

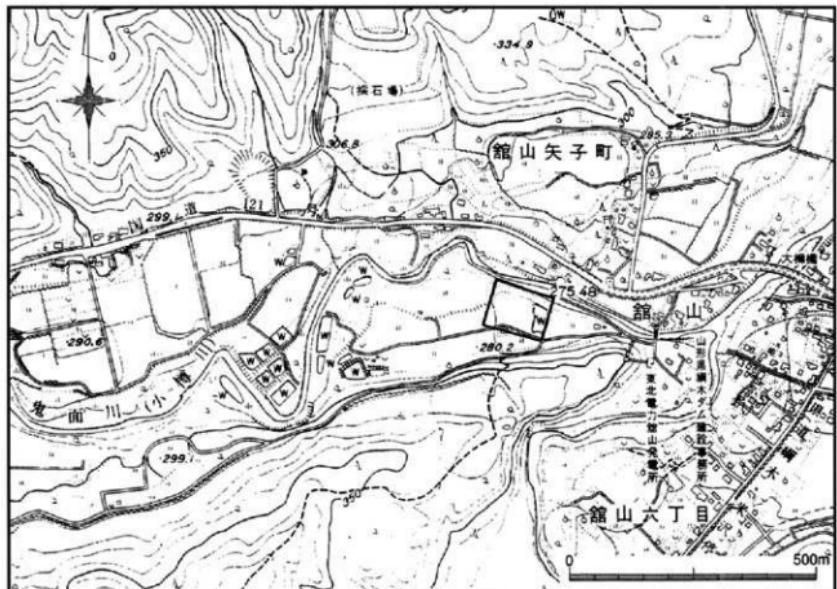
1 遺跡概要

本館跡は市街地から西方約4km、大字館山付近に所在し、丘陵の谷間となる底辺には、南からの大樽川、北側の小樽川が発達した河岸段丘の標高約280mに所在する。東側には館山東館跡、すぐ南側には伊達氏と関係する標高約330mの館山城跡が分布する。

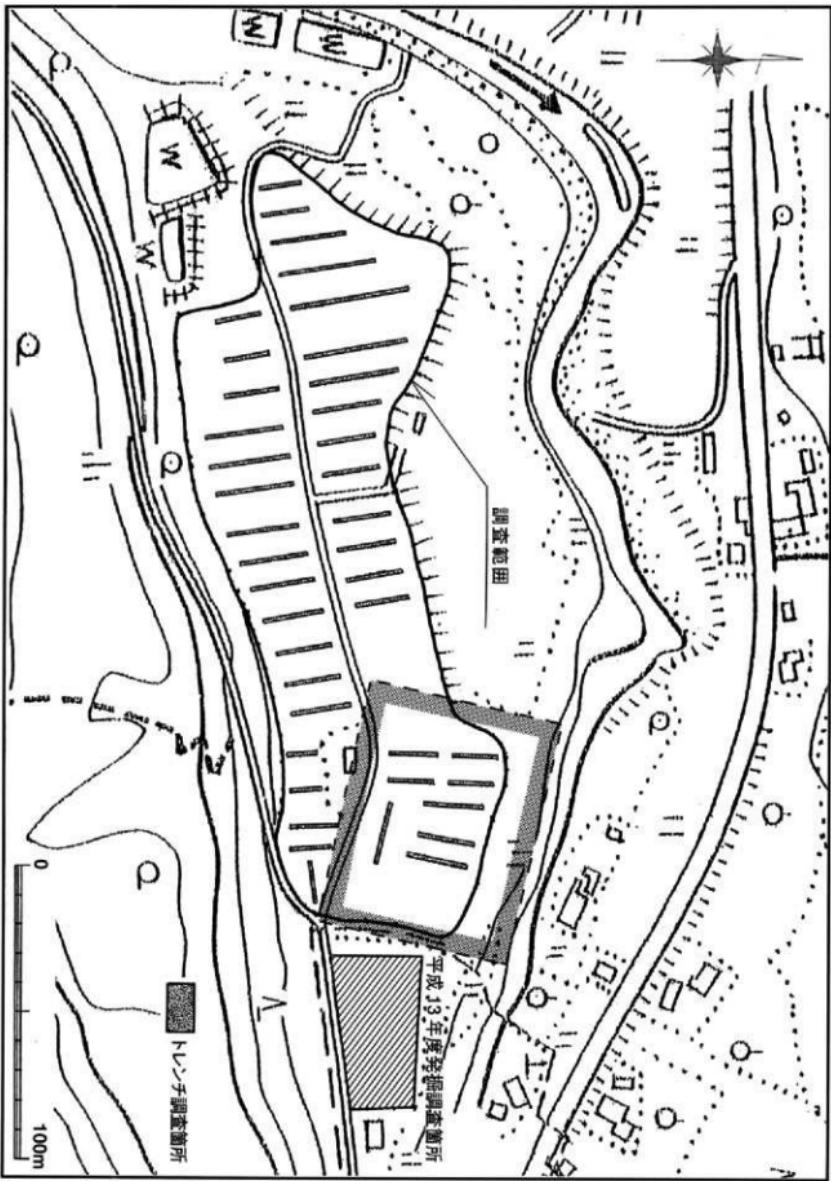
分布調査の経緯は、当遺跡範囲が平成10年に刊行した米沢遺跡地図（第35図）によると、東西約130m×南北約100mの約13,000m²の範囲を示しているが、平成13年に実施した当館跡東側の緊急発掘調査により、東側及び西側に遺跡範囲が広がっていることが指摘された。このことから台地状部分の西側に約350m、西側の南北方向に約100mの約3,500m²範囲の分布調査を実施した。

2 調査状況

館山南館の分布調査を12月10日～19日、北館の試掘調査は12月20・21日の2日間で実施した。当該地に重機を使用し、幅2m×30m等のトレーナーを40本設定（第36図）し調査した結果、概ね表土下40～60cmで茶褐色・灰青色シルト及び粘土質シルトあるいは、これらに砂利が多量含む地山層が確認された。東西方向に走る農道から南側の地山層は安定していたが、北側の地山層は圃場整備で擾乱及び削平されており、礫が多く含んでいた。遺物は出土されなかったが、全体的に柱穴と思われる痕跡が認められる。詳細な遺構の分布状況については次年度から実施する予定である。



第36図 館山北館跡位置図



第37図 館山北館跡付近調査区

第三節 成島古墳群1号墳の調査

1 遺跡の概要（第37～41図参照）

成島古墳群はJR米坂線成島駅の南側に位置する丘陵の頂上一帯に構築された古墳群で通称御獄堂山と呼ばれている。古墳は第38図で示す地点に分布し、山頂の標高は327.2mである。

山頂の1号墳は前方後円墳であり、平成3年（1991）に測量調査、平成12年（2000）には後円部の復元を目的とした発掘調査を実施している。他に5基の方墳があり、合計6基からなる古墳群である。1号墳の全長は60m、陪墳と考えられる2号墳は13m×13mの方墳であり、1号墳の後円部北東に隣接する。

3・4号墳は、1・2号墳の位置から北東に約90m離れた場所にある。第40図に示したのが略測図であり3・4号墳が舌状丘陵地を利用して東西に並んで構築されている。両者とも方墳であり、東方の3号墳は12m×12m、4号墳は15m×15m、高さ1m前後と低い墳丘である。3号墳と4号墳の合間には屋根を分断して構築した幅3mの溝がある。

4号墳の中央に石の祠が祀られており、東西方向には幅1.5mの浅い周溝が認められ、一部がブリッヂのように見えるが、祠を設置する際に埋めた可能性もある。墳丘には数箇所の凹地が認められ、人為的に掘られた形態から木の根の採集目的と判断される。盜掘等は認められなかった。次に5号、6号墳について述べる。

第41図に示したのが略測図であり、3・4号墳の北西約30m先に位置する。この2基も方墳であり、5号墳は16m×16m、6号墳は23m×23mでこの6号墳が最大規模を有する方墳である。3・4号と同様に両者の合間には尾根を分断して構築した溝がある。断面図で示すように6号墳は墳丘の高さが4mもあり、下から見上げる景観は他を圧倒する。

2 調査に至る経過

今回の調査は成島古墳群1号墳を対象としたものである。平成12年度の調査は崩壊が著しい後円部の復元を目的としたものであった。この調査によって、後円部の盛土状況や主体部について確認した。しかしながら不充分な事項もあることからトレンチを延長し、断面景観を実施することを目的に今回の調査を実施した。

3 調査の経過

平成12年の調査によって、雑木が除去されていることから、初日からトレンチの掘り下げに着手することができた。第43図に示したものが調査箇所であり、Eトレンチの箇所である。調査区は幅1m、長さ6.2mの範囲である。

調査は12月2日から開始した。トレンチの掘り下げには3日間を要した。12月5日は小雪であったがセクション図作成を実施した。また晴れ間を見て写真撮影も実施した。12月6日の午後からは埋め戻しに着手し、完了した。その後第IV節で述べる古墳群の分布調査に着手。成島古墳群を含む一帯及び、広幅地区を対象に12月9日から12月25日の期間で実施した。

4. 調査の成果

今回の調査によって、第43図で示す土層断面を確認した。この土層断面図は平成12年度の断面図とつなぎあわせたものである。墳丘中央に設置された主体部と墳丘南西部2段目下場までの土層断面図で空白になっている箇所が主体部の位置である。

盛土は墳丘で80cm、斜面では50cmの深さが認められ、斜面箇所の51・52・53の層位は版築が謙虚に認められた。

土色は黄褐色系と赤褐色系に大別される。黄褐色系は古墳が構築された場所に多く認められる土色である。赤褐色系は一部に限られた場所に認められる土色である。表土には意図的に赤褐色系の土を盛土した様相を呈していた。土は粘質を帯びる土壤で雨に濡れるとベトベトになり、乾燥すると固くなる。

今回の調査区からの遺物は認められなかった。また主体部等を示す土色変化の箇所も認められなかった。ゆえに主体部は平成12年度に確認した一箇所だけと言えそうである。第44図に示したのが平成12年度に確認した主体部の断面図である。鋸歯状に落ちこんでいる箇所が主体部と判断され、設置された木棺が腐食し落ちこんだ際に生じた断面図と理解される。この様な断面形態が生じるのは墳丘を構築した跡に墓壙を掘らないと出来ない断面形態と考えられる。

前述したように、今回の調査区からは他に第44図のような断面形態が確認できなかつたことから主体部は後円部に関しては1基だけと判断したい。前方部に関しては後円部に認められた自然の落ち込み等は存在しないことから墓壙が存在する可能性は極めて低い。

5.まとめ

成島古墳群は、山頂に構築された1号墳の前方後円墳1基と5基の方墳で構成する古墳群である。古墳の形態を見た場合、成島1号墳は後円部と前方長が同一であり、前方後円墳の仲間としては最も優美な古墳形態を示している。

埋葬施設としては、割竹形木管直葬が想定される。平成12年の調査では墓壙確認するとともに木棺の痕跡も確認している。また土層断面図の吟味から盛土を掘り込んで主体部を構築したとの報告した。今回の調査結果からこの報告を覆す資料は認められなかった。

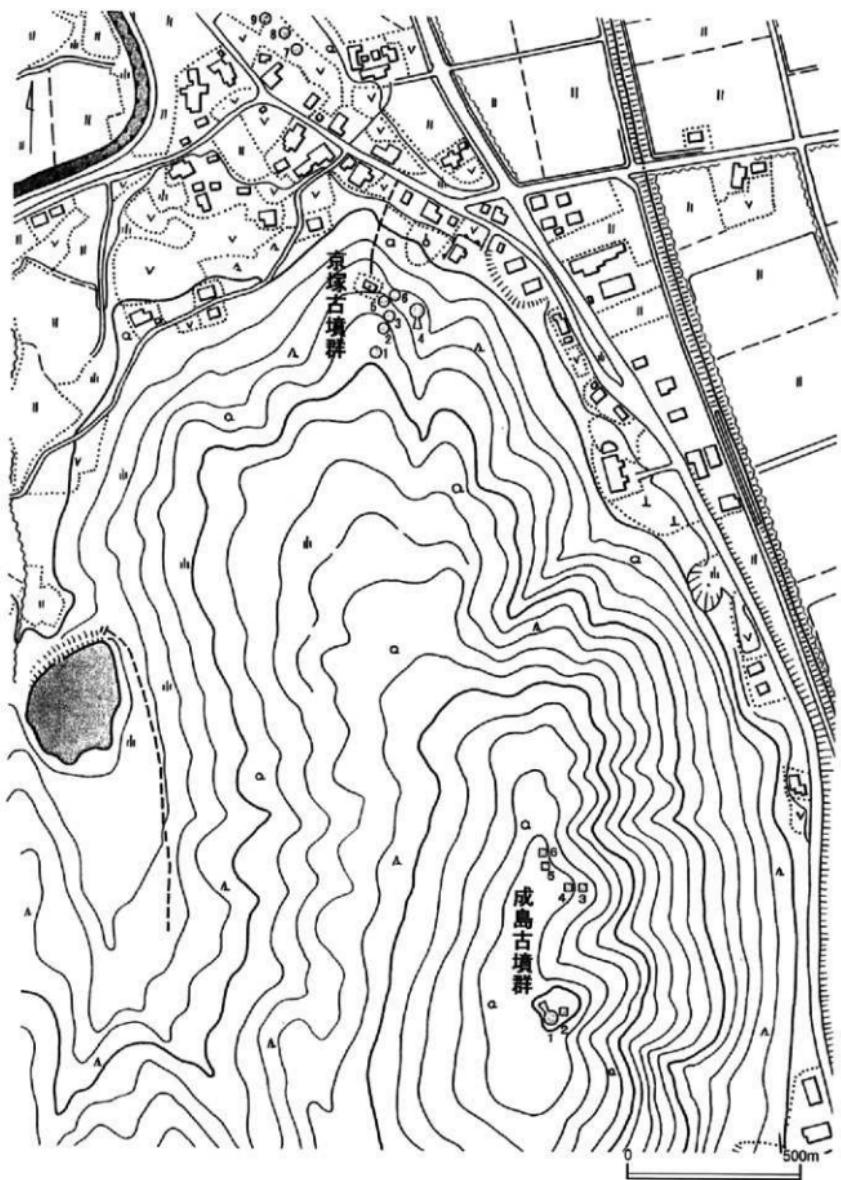
古墳の年代を決定する遺物は今回も認められなかった。平成12年度の調査の際には墳丘から後世に置かれた可能性が高い土師器高杯と土師器壺の破片が出土している。しかし、この遺物は直接的な時期を示すものではない。

古墳の形態から成島1号墳は4世紀から末期、下限を5世紀前半の古い段階と現在のところでは推測する。

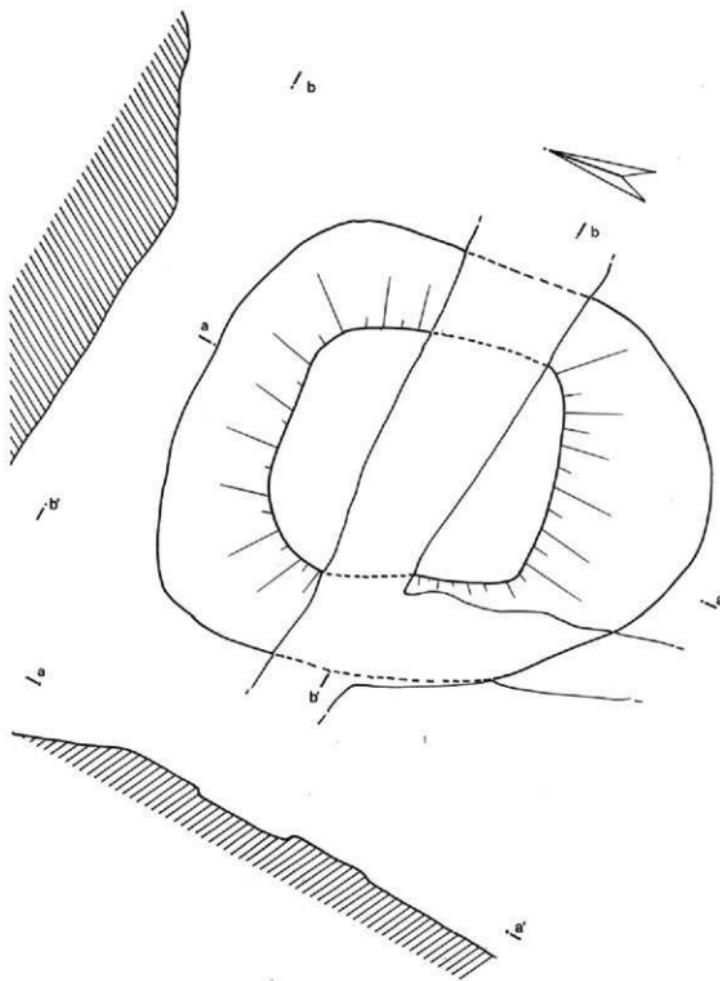
米沢盆地の古墳の成立は米沢市の横山古墳の調査等から4世紀中頃まで遡ることが判明している。その後、4世紀後半から4世紀末頃にかけて、地域の首長墓と呼ばれる大型の古墳が次々と築製された。今回の成島1号墳もこれらの一連の流れの中で築成されたものであり、今後の古墳文化の究明に重要な資料を提供したといえる。最後に今回の調査にあたり、平成12年度と同様、お世話になりました関係各位に厚くお礼申し上げます。また雪の中の作業をお願いした作業員のみなさん、おつかれさまでした。

第38図 古墳群位置図

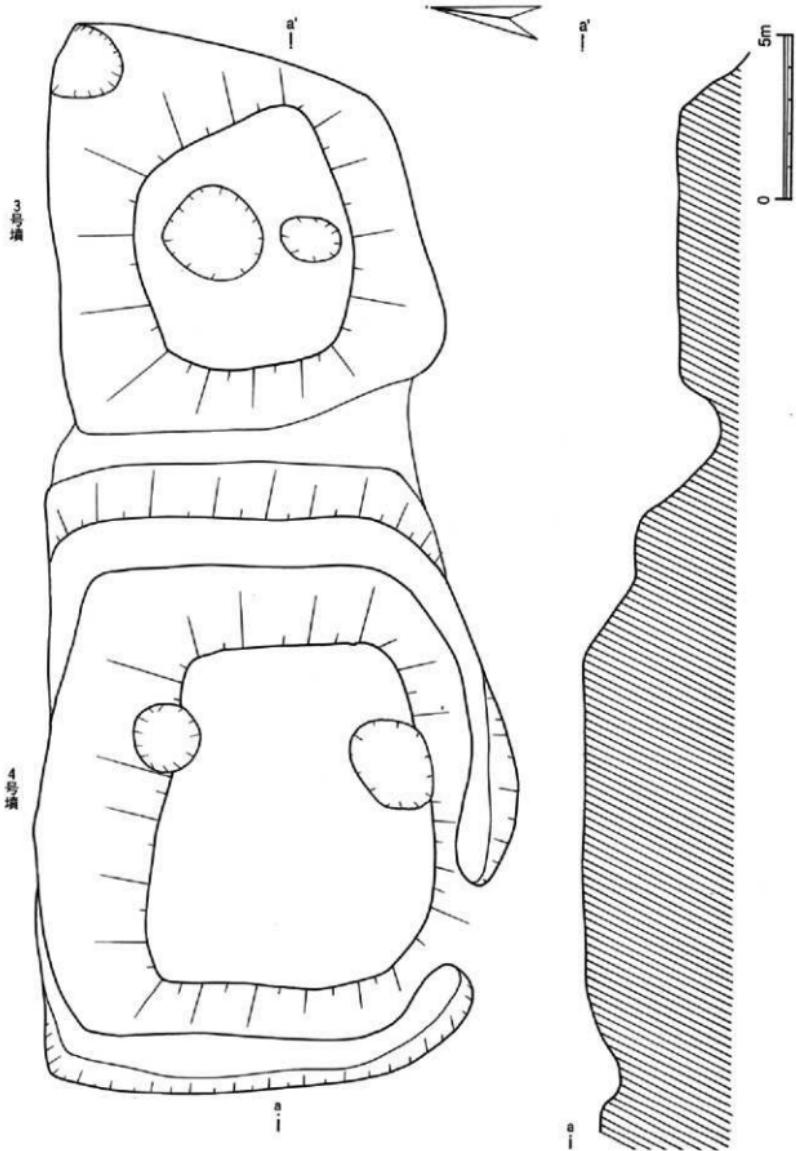




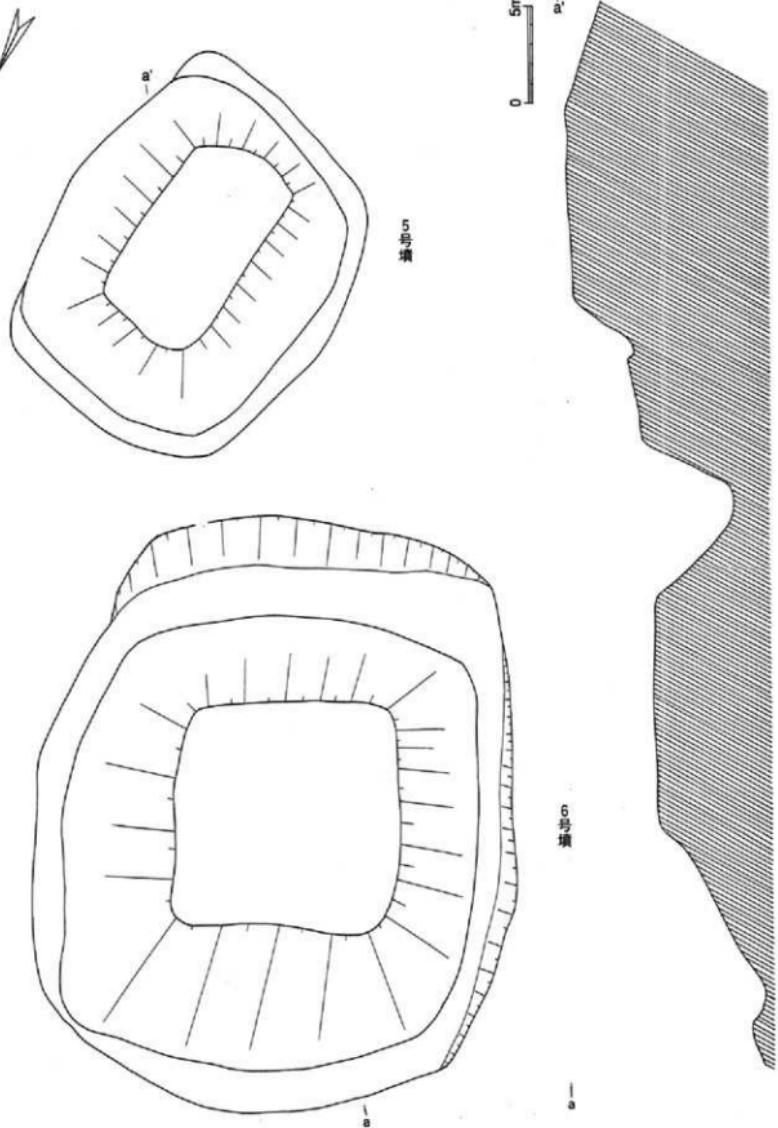
第39図 成島古墳群・京塚古墳群分布図



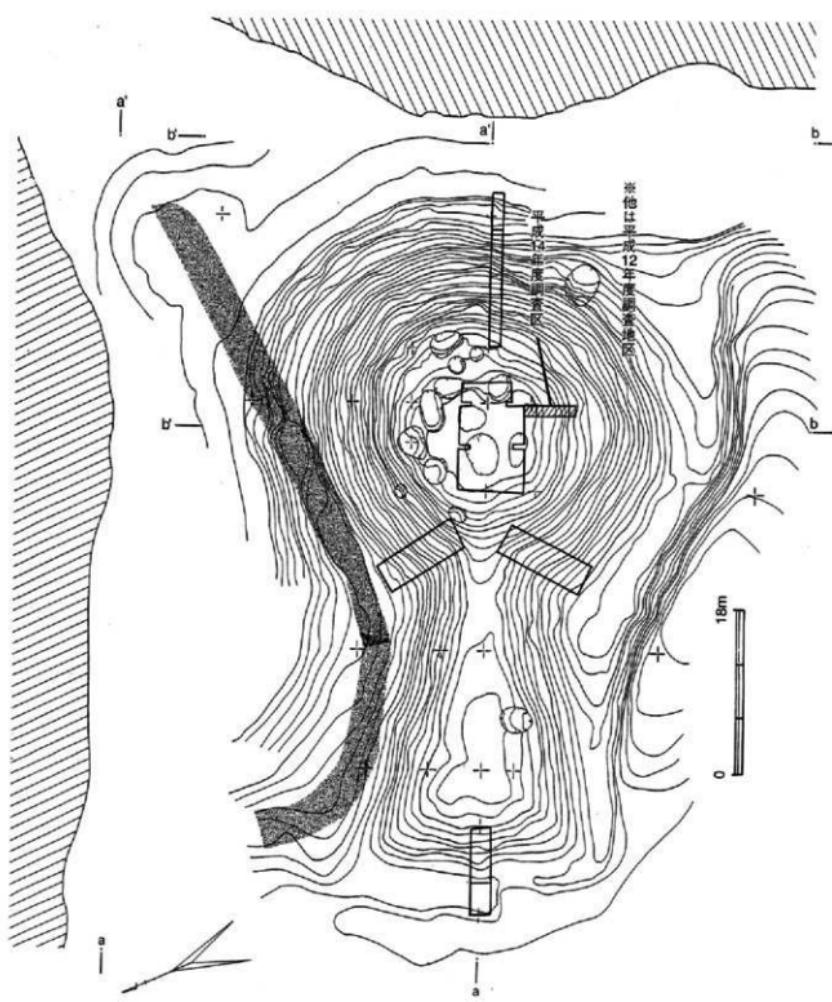
第40図 成島古墳群2号墳略測図



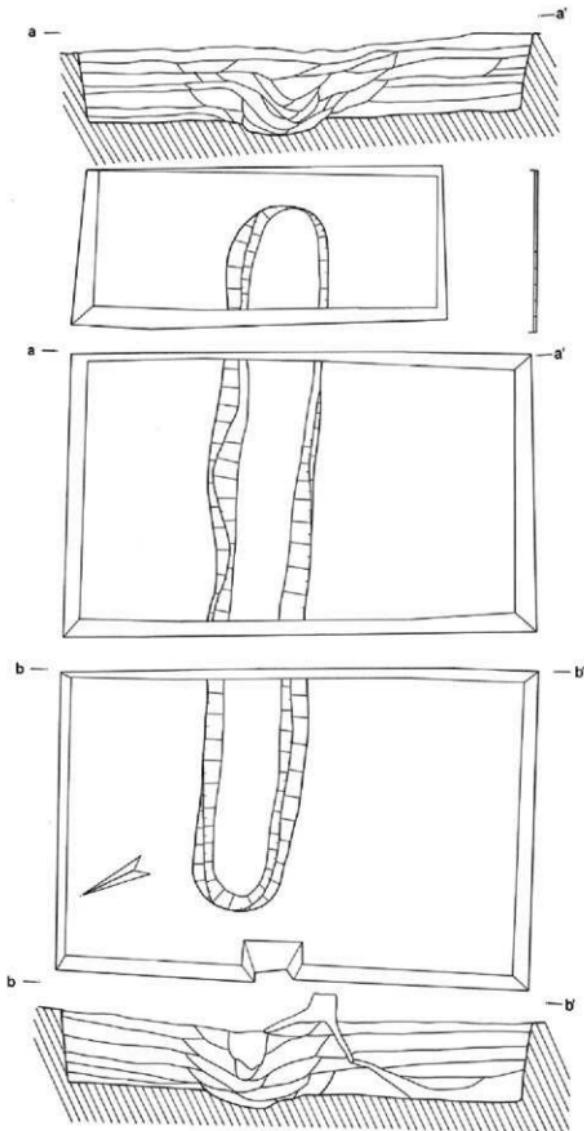
第 41 図 成島古墳群 3・4 号墳略測図



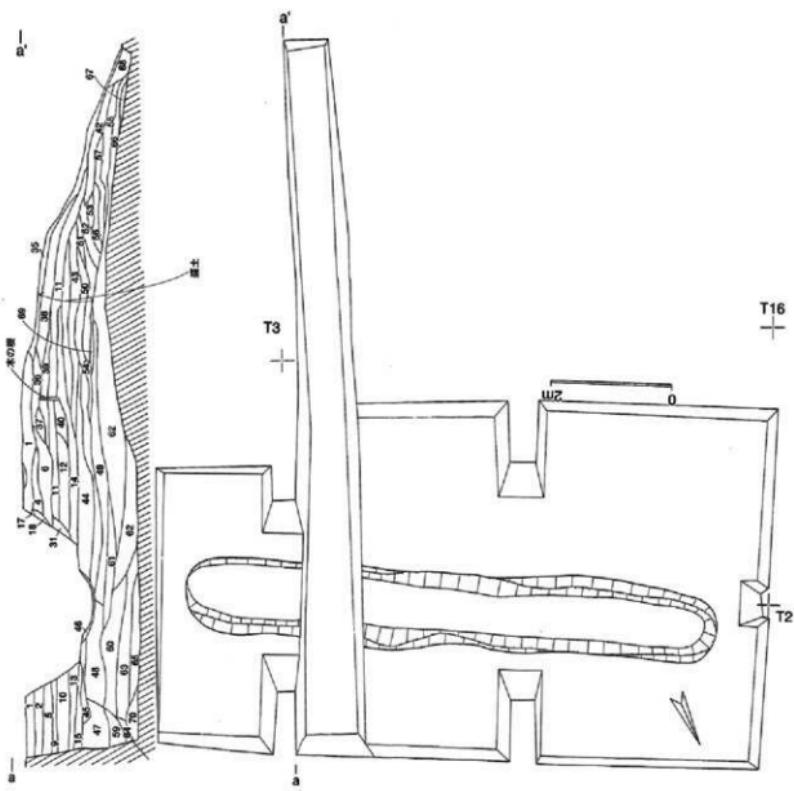
第42図 成島古墳群5・6号墳略測図



第43図 成島古墳群1号墳調査区配置図



第44図 成島古墳群1号墳主体部断面図



第45図 成島古墳群E トレンチ断面図

第IV節 広幡地区古墳群の分布調査

1 調査の目的

成島古墳群が所在する広幡地区は米沢市の北西部に位置する。丘陵に沿って国道287号が南北に走る。当地域には京塚と呼ばれる箇所があり、お経塚と呼ばれる場所も所在している。周辺には置賜三十三観音の一番札所である上小管観音堂があり、境内には天然記念物の大ケヤキがある。

京塚の名が示すように以前に経筒が出土したと言われているが、所在は不明である。また地区を流れる誕生川には次のような伝説がある。それは前述した観音様の建立に関連するものである。ある日、川の流れによって観音様が運ばれてきて、それを御神体として奉ったのが上小管観音堂であると言うのである。川の名前もそれにちなんで誕生川と命名したと言う。

これまでにも、城館跡の調査や塚等の調査で分布調査を実施してきたが、不充分な箇所もあり、今回の分布調査によって、より詳細な分布地図を作成するため実施した。

2 調査の経過

調査は平成14年12月9日から同年12月25日の期間で実施した。すでに発見されている成島古墳群の周辺から開始した。この辺一帯は以前と比べると松喰虫の影響で多くの松の木が切り倒され、見通しが良い景観を呈していた。また12月上旬から中旬という季節も手伝って自由に山に入れた。というのはこの辺一帯は松茸の産地であり、特に秋はほとんどの山が守り山と称して山に立ち入ることを禁じているのである。

初日には早くも京塚古墳群を確認した。この古墳群については略測図を作成することができた。その中には前方後円墳が1基含まれている。また晴れ間を見て写真撮影も行った。その後、積雪が約30cmに達したが墳丘の確認には支障がないと判断し調査を継続した。しかしながら平板測量による略測図の作成と写真撮影は断念せざるを得なかった。ゆえに略測図を作成した京塚古墳群を中心に概要を述べる。

3 調査の成果

第37図で示すように南方から京塚古墳群・下小管古墳・延長寺古墳・西方古墳群の4箇所を新たに確認した。列挙した順で概要を説明したい。

●京塚古墳群

第38図で示した箇所に古墳群は分布する。1号墳から9号墳までの9基を確認した。古墳群は神明神社境内を中心にして6基、北方の平坦地に3基で4号墳の前方後円墳を除き円墳の形態を有する。なお神明神社がある場所は丘陵の突端部であることからこの場所にも古墳が構築されていたと考えられるが、削平された現況であり確認することはできなかつた。神明神社は陵線の丁度中央にあたる。字名はこの陵線が境になっており、古墳の分布する箇所は字名では京塚地区になることからこれらの古墳群を京塚古墳群と命名した。次に番号順に説明したい。

●京塚古墳群1号墳（第45図参照）

1号墳は最も高いところにあり、ほぼ平坦地に構築された直径9mの円墳である。墳丘のほぼ中央に幅2m、深さ60cm位の削平箇所がある。盗掘等ではなく一見、重機が通った跡とも見えるが、周囲に重機が通った痕跡がないことからすると墳丘については不明と言わざるを得ない。

墳丘は1m前後と低いのが特徴であり、周溝は認められなかった。現状は雑木に覆われており、注意してみなければ見逃すような古墳である。

●京塚古墳群2号墳（第46図参照）

第38図でわかる様に2号、3号は隣接して、構築された古墳である。断面図からもわかる様に墳丘は平坦であり、直径14mを測る。高さは北方から見れば高く見えるが、これは斜面に構築されたことによるものである。南部はほとんど比高差がない形態を有する。なお3号墳は2号墳のほぼ半分の規模である。

●京塚古墳群3号墳（第46図参照）

前述したように2号墳の北方に位置し、直径8m、墳丘は平坦で高さは1m前後である。両者とも雑木に覆われているが、平坦地に構築された1号墳と異なり緩やかな斜面にあることから立派に見える。

●京塚4号墳（第47図参照）

全長約40mの前方後円墳である。前方部幅は15m、後円径は21mを測る。両くびれ部には部分的に周溝が認められる。また全周に平坦地が付随している。前方部から後円部にかけて緩やかに傾斜している墳丘形態である。

前方部は屋根を削平し、ほとんど盛土はないものと判断され、後円部に集中的に盛土をして構築した様相を呈する。従って後円部下場から見上げると高さを感じられるが前方部から見ると高さを感じられない古墳である。

なおこの前方後円墳の墳丘は山道の一部になっており、中央部を中心にきれいに雑木が除去されていた。今年は略測図しか作成できなかったが次年度には測量図を作成したいと計画している。土地所有者も陵線にあることから数名に及ぶことが判明している。

●京塚5号墳（第42図参照）

神明神社境内に隣接する小規模な古墳である。略図は作成しなかったが、3号墳と同様な規模である。

●京塚6号墳（第45図参照）

丘陵斜面に構築した円墳であり、周溝が半周する形態である。墳丘の中央周辺に主体部を示す凹地が認められる。このことは主体部が木棺であることを示唆していると言えよう。この様な箇所は調査を実施した成島古墳群1号墳にも認められ、落ち込み箇所が主体部の一部であったことが判明している。6号墳は墳丘が3.5mと高く、直径も15mと京塚古墳群の円墳としては最大規模を有する。

●京塚古墳群7号墳（第47図参照）

平坦地に構築された7号墳は畑の中にあり、墳丘にはキワダの大木がある。墳丘の一部が削平されているがほぼ現況を呈している。隣接する8号墳とともに地元では「お経塚」と呼ばれてお

り、土地所有者の話によれば以前山形大学から調査の要請があったが、祖先の言い伝えによってこの場所は立ち入り禁止となっていることから、要請を断ったとのことであった。見聞した感じでは円墳と思われるが経塚として再利用したとも考えられることから明言は避けたい。

●京塚古墳群 8号墳（第47図参照）

墳丘が若干削平されており、その土が墳丘下場に溜まり墳形は明確に把握できなかった。前述したように、土地所有者によって大事に守られてきた。平坦地にあってよく削平を受けず今日まできたものだと感動した。

●京塚古墳群 9号墳（第39図参照）

この場所は平坦地の最も北方に位置し、民家がすぐ近くにある。墳丘には多くの石塔が建立され、信仰の場になっている。周溝と推測される箇所が一部残っているが、墳丘の大半が前述した理由により削平されている現況である。

●下小菅古墳（第48図参照）

京塚古墳群から北方に約1.8kmに位置し、2基の方墳からなる。丘陵山麓に構築した古墳である。

●延長寺古墳（第48図参照）

下小菅にある延長寺の南方約80mに位置し、1基を確認した。形態は方墳である。

●西方寺古墳（第48図参照）

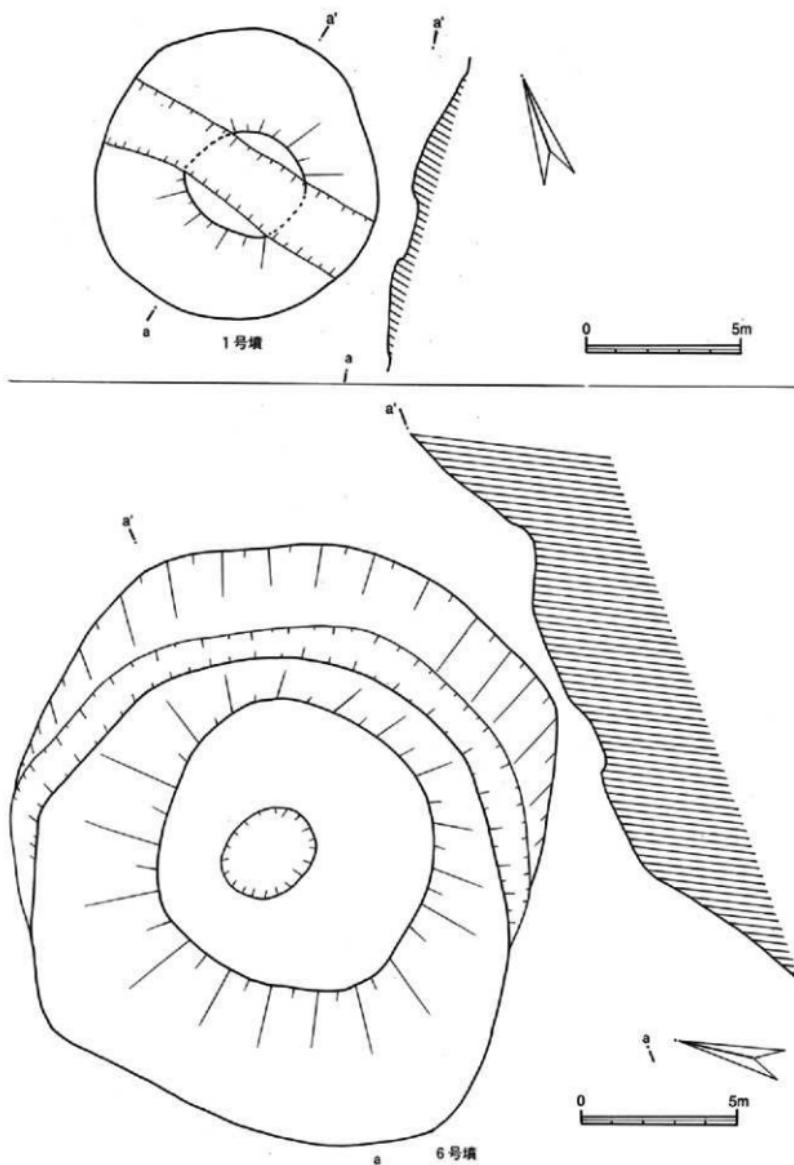
川西町との境に近い地域に位置し、8基の方墳から構成される古墳群である。以前から塚の存在は知られていたが、古墳との認識はしておらず、今回の調査で改めて古墳と認識した。今回の分布調査を通じ感じたことは、地名や先入観にとらわれてしまい、事実を見逃してしまう場合もあることを痛感した。これからは、これらのこととに惑わされることなく調査を継続していきたい。

4 まとめ

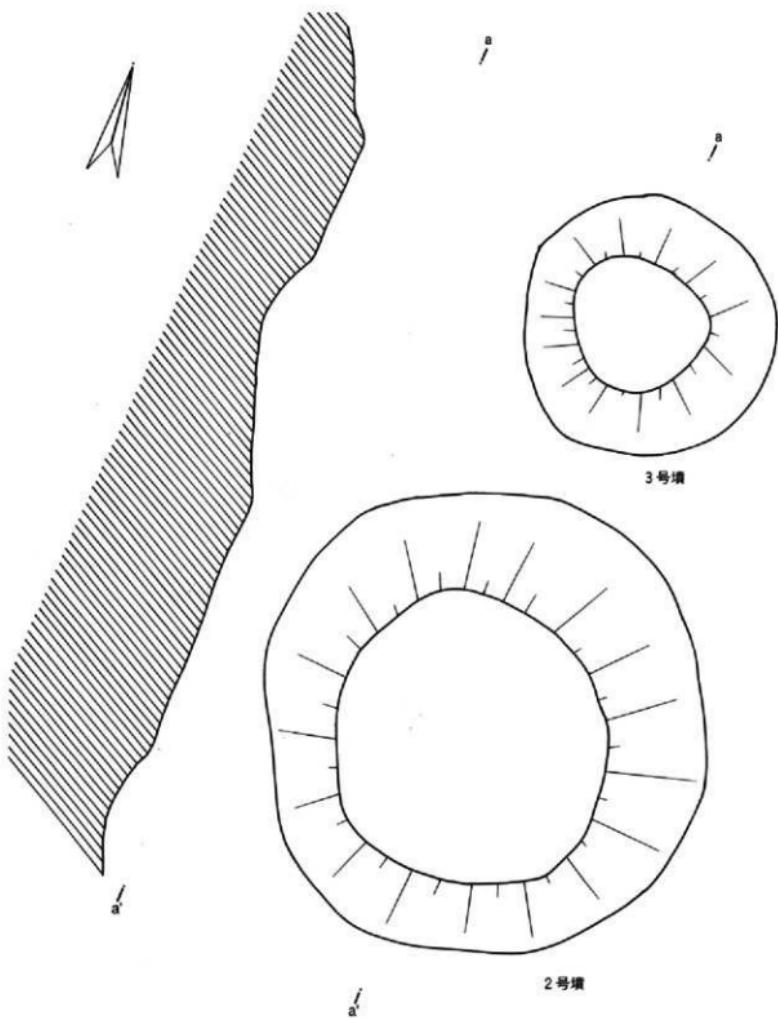
今回の分布調査での最大の成果は、京塚山古墳群4号墳と名称した全長40mの前方後円墳の確認である。当市においてこれまでに確認した前方後円墳は戸塚山古墳群139号墳は第III節で述べた成島古墳群1号墳のわずか2基のみである。

他に、京塚古墳群の円墳8基、下小菅古墳の方墳2基、延長寺古墳の方墳1基、西方古墳群の方墳8基の合計19基に及ぶ古墳群の確認がある。これらの古墳群についても詳細な調査が必要である。また、一連の古墳群が里山と呼ばれる民家の近い場所に構築されており、道路や宅地としての利用が考えられる場所にあることから、住民の理解を得、保存して行くことも重要な事と認識される。

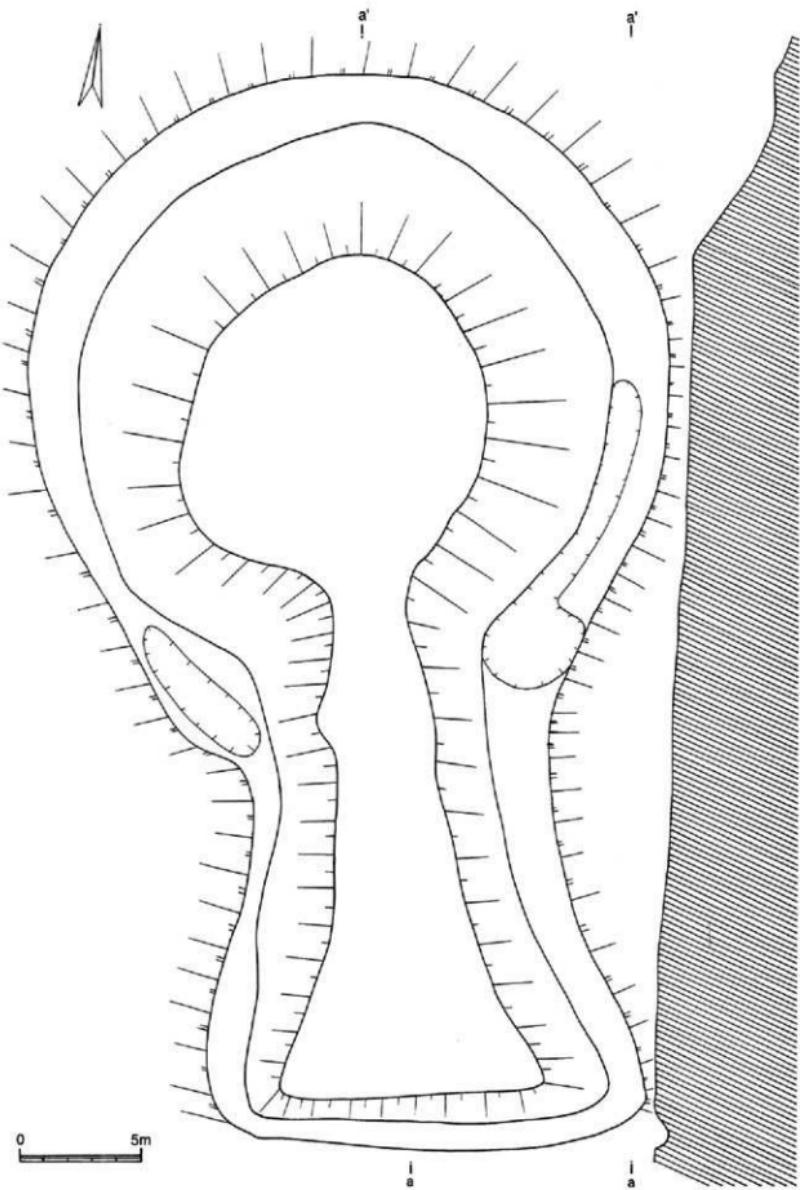
最後に雪の中にもかかわらず調査に協力、御教示をいただいた地元の鈴木 仁氏、金田八良氏の両名に記して感謝を申し上げます。



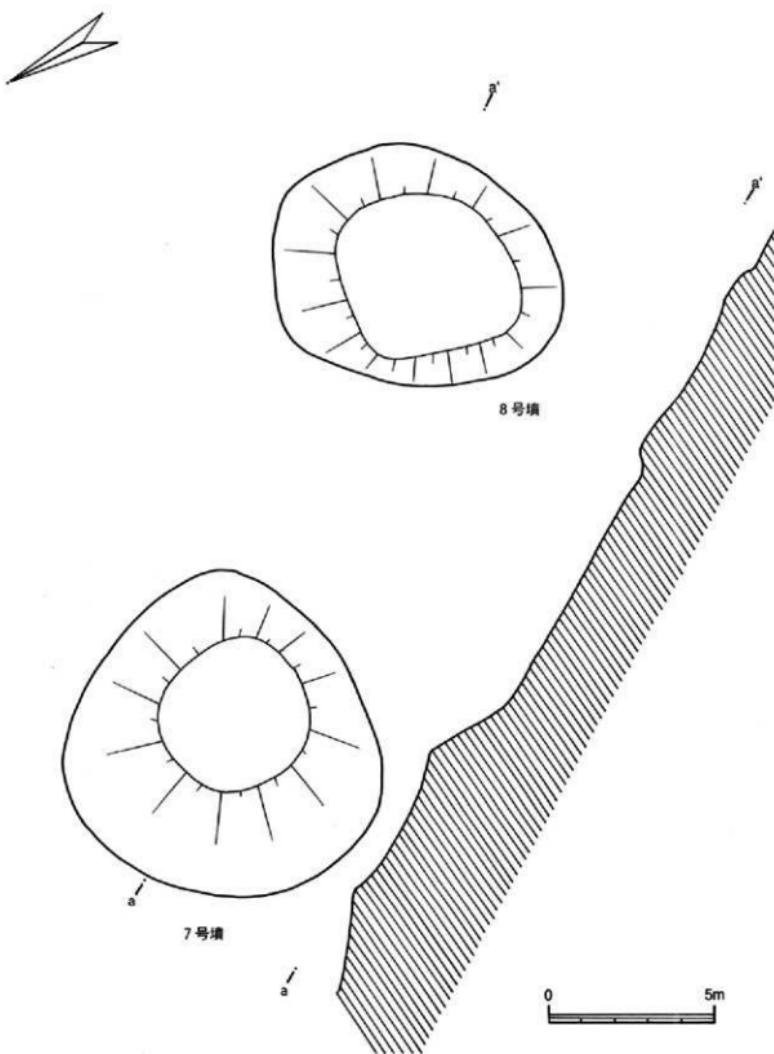
第45図 京塚古墳群1・6号墳略測図



第47図 京塚古墳群2・3号墳略測図

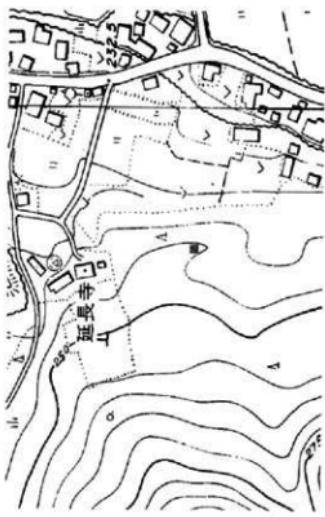


第48図 京塚古墳群4号墳略測図



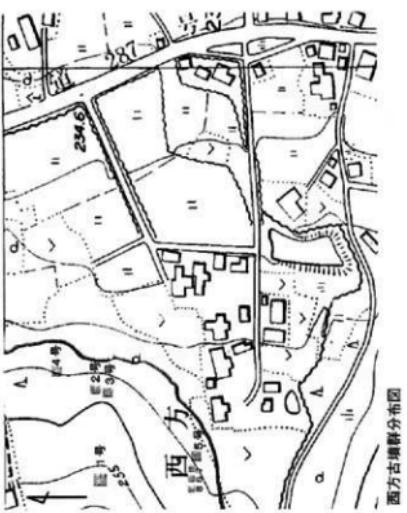
第49図 京塚古墳群7・8号墳略測図

100m



延長寺古墳分布図

下小菅古墳分布図



西方古墳群分布図



下小菅古墳分布図

報告書抄録

ふりがな 書名	いせきしおうさいぶんぶちょうびほうこくしょ 遺跡詳細分布調査報告書
副書名	
巻次	第16集
シリーズ名	米沢市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第80集
編著者名	菊地政信・月山隆弘
編集機関	米沢市教育委員会
所在地	〒992-0012 山形県米沢市金池三丁目1番55号 TEL0238-22-5111
発行年月日	2003年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なるしまこふんぐん 成島古墳群 こうふんぐん 1号墳	や生がせけんよねがわし 山形県米沢市 ひがねいたせんじまざわ 広幡町成島字 ろくめいじやま 六月在家山	6202	米沢市 遺跡番号 I-602	37度 45分 20秒	140度 03分 25秒	20021202 ～ 20021225	12m ²	確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
成島古墳群 1号墳	古墳	4世紀後半～ 5世紀前半			新たに前方後円 墳1基を含む9基 の京塙古墳群を 確認。

写 真 図 版

図版一
館山北館跡の分布調査



▲調査区全景（南東から）

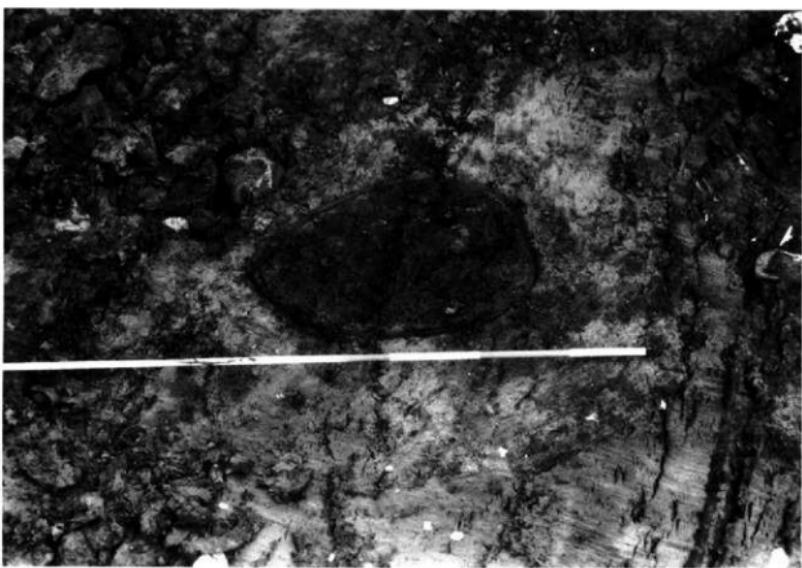


▲トレンチ調査状況（東から）

図版一 錦山北館跡の分布調査



▲トレンチ調査状況（北から）



▲柱穴検出状況

図版三 成島古墳群1号墳の調査

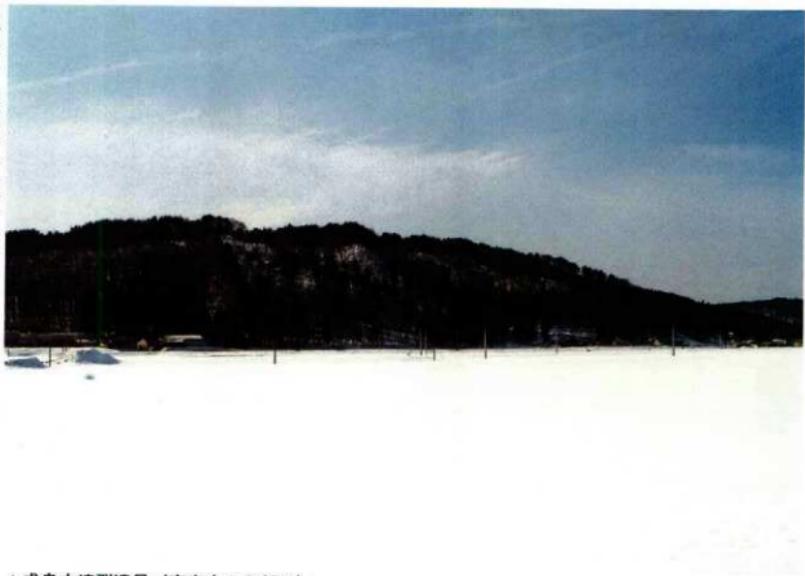


▲成島古墳群1号墳（前方部から望む）



▲成島古墳群1号墳後部（東方から望む）

図版四 成島古墳群一号墳の調査



▲成島古墳群遠景（東南方から望む）



▲国道 287 号から成島古墳群を望む（南東から）



▲成島古墳群 2号墳（南方から望む）



▲成島古墳群 1号墳の重機削平箇所（東方から望む）

図版六
成島古墳群の調査



▲成島古墳群 3号墳（南西から望む）



▲成島古墳群 4号墳（南方から望む）

図版七 成島古墳群の調査



▲成島古墳群 5号墳（南方から望む）



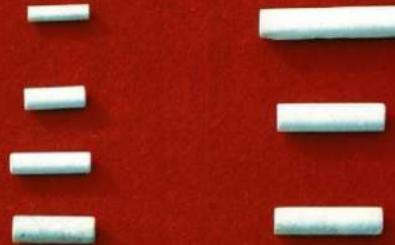
▲成島古墳群 6号墳（南方から望む）

図版八

成島古墳群
1号墳出土遺物



▲成島古墳群1号墳出土の鹿角装劍



▲成島古墳群1号墳出土の管玉

図版九 成島古墳群一号墳の確認調査



▲ 2002年度トレンチ全景（南方から望む）



▲ 2002年度トレンチ近景（南方から望む）



▲ 2000 年度調査の E トレンチ（2002 年度は右側に延長）



▲ 2002 年度 E トレンチ延長状況（墳丘から望む）

図版十一 成島古墳群一号墳の確認調査



▲ 2002 年度 トレンチ全景（南方から）



▲ 2002 年度 トレンチ全景（南西から）

図版十二 成島古墳群一号墳の確認調査



▲ 2002年度トレンチセクション（墳丘から望む）



▲ 2002年度トレンチセクション（二段目下場）



▲成島古墳群1号墳埋戻し（2000年度）



▲成島古墳群1号墳トレンチ埋戻し（2002年度）

図版十四 京塚古墳群の分布調査



▲京塚古墳群1号墳（北西から望む）



▲京塚古墳群2号墳（3号墳から望む）



▲京塚古墳群 2号墳（南東から望む）



▲京塚古墳群 2号墳（北西から望む）

図版十六 京塚古墳群の分布調査



▲京塚古墳群 4号墳（前方部から望む）



▲京塚古墳群 4号墳（後円部から望む）



▲京塚古墳群 3号墳（北西から望む）



▲京塚古墳群 6号墳（北東から望む）

図版十八
京塚古墳群の分布調査



▲京塚古墳群 7・8号墳（西方から望む）



▲京塚古墳群 9号墳（石塔のある場所）

米沢市埋蔵文化財調査報告書 第80集

遺跡詳細分布調査報告書

平成15年3月20日 印刷

平成15年3月31日 発行

発行／米沢市教育委員会
米沢市金池三丁目1番55号
TEL(0238)22-5111
印刷／柳青葉堂印刷
米沢市下花沢三丁目8番50号
TEL(0238)21-2366㈹ FAX21-1776